茨城県教育財団文化財調査報告第428集

山王中坪遺跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書5

平成30年3月

国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第428集

山王中坪遺跡

（さんのうなかつぼ）

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書5

平成30年3月

国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は，国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として，昭和52年に調査課が設置されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所による首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施した，茨城県猿島郡五霞町山王中坪遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって，江戸時代の堤防跡などが確認でき，堤防の構築方法や，水害と闘ってきた五霞町の人々の生活の一端が明らかになりました。これらの成果は，当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で，欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が，歴史研究の学術資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から本書の刊行に至るまで，多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，五霞町教育委員会をはじめ，御指導，御協力をいただきました関係各位に対し，深く感謝申し上げます。

平成30年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成28年度に発掘調査を実施した，茨城県猿島郡五霞町大字山王1,497番地ほかに所在する山王中坪（さんのうなかつぼ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成28年8月1日～9月30日

整理　平成29年8月1日～9月30日

3　発掘調査は，副参事兼調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長　　奥沢哲也

次席調査員　　盛野浩一

次席調査員　　大武宣隆

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長皆川修のもと，次席調査員大武宣隆が担当した。

5　本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等の資料は，一括して茨城県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，世界平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋11,200 m，Y＝－5,320 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　PG －ピット群　SA －堤防跡・柱穴列跡　SD －溝跡

SE －井戸跡　SK －土坑

遺物　DP －土製品　M－金属製品　Q－石器

土層　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

施釉　　油煙

●土器　○土製品　□石器　△金属製品

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　今回の報告分で，整理段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更　SK69→SE 1　SK72→SE 2

欠番　SK 3，4，6，8

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
山王中坪遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 4
　第１節　位置と地形 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　調査の概要 …… 9
　第２節　基本層序 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 11
　　１　江戸時代の遺構と遺物 …… 11
　　(1) 堤防跡 …… 11
　　(2) 溝　跡 …… 18
　　(3) 土　坑 …… 19
　　２　その他の遺構と遺物 …… 32
　　(1) 井戸跡 …… 32
　　(2) 土　坑 …… 33
　　(3) 柱穴列跡 …… 38
　　(4) ピット群 …… 40
　　(5) 遺構外出土遺物 …… 41
第４節　まとめ …… 45
写真図版 …… PL１～PL６
抄　録

山王中坪（さんのうなかつぼ）遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

山王中坪遺跡は，五霞町の東部に位置し，利根川右岸の標高 12 m ほどの低台地上に立地しています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に先立ち，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，茨城県教育財団が平成 28 年度に，988 ㎡について発掘調査を行いました。

調査の内容

今回の調査により，江戸時代の堤防跡 1 条，溝跡 1 条，土坑 33 基などを確認しました。堤防の構築方法を確かめるため，断面を調べたところ，まず盛土する部分を整地し，その上に土を重ねるように盛り上げ，最後に法面を整えていました。また，堤防の幅を広くする工事も行っていたことが分かりました。

調査区遠景（西から）

第 1 号堤防跡 表法尻 遺物出土状況

第 1 号堤防跡 土層 (調査区壁)

出土した江戸時代の焙烙

出土した江戸時代の磁器

調査の成果

今回の調査で，五霞町全域を囲む輪中堤の一部，調査区を東西に延びる第 1 号堤防跡を確認しました。堤防を構成する土の中から，大水で流れてきたとみられる焙烙（ほうろく）や磁器などが出土しています。この堤防は，江戸時代の利根川東遷（とうせん）事業の中で，17 世紀中葉から 18 世紀中葉の間に構築されたと考えられます。また，土層の堆積（たいせき）状況から，堤防が度々大水の被害を受け，その都度（つど）補修したり強化したりしてきたことが分かりました。江戸時代の五霞の人々が常に水害と闘ってきた痕跡が確認できました。

その他，長方形の土坑が多数確認できました。これらの土坑からは，陶磁器，煙管（きせる）及び銭貨（せんか）などが出土しており，江戸時代の墓坑であったと考えられます。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成17年7月12日，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成21年9月4日に現地踏査を，平成26年10月3日及び10月28日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成27年3月17日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所長あてに事業地内に山王中坪遺跡が所在すること，及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

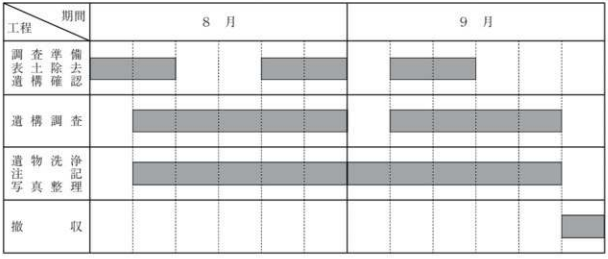
平成28年2月15日，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成28年2月22日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所長あてに現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成28年3月2日，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成28年3月3日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所長あてに山王中坪遺跡の発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成28年8月1日から平成28年9月30日まで発掘調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

山王中坪遺跡の調査は，平成28年8月1日から9月30日までの2か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

山王中坪遺跡は，茨城県猿島郡五霞町大字山王1,497番地ほかに所在している。

五霞町は，茨城県の南西部，利根川の南に位置しており，北を利根川，東を江戸川，西から南にかけてを権現堂川によって区画されている。町域の地形は，利根川及び中・小河川によって開析された低地と五霞台地と呼ばれる低位段丘群によって構成されている。五霞台地は，猿島台地の南西部が江戸時代の利根川東遷により，切り離されたことで形成されたものである。町内の標高は，最高標高17.5m，最低標高9mで，おおむね北西部から南東方向に標高が低下している。

利根川流域に広がる低台地の地質は，新生代第四紀沖積層が中心で，約1万年前までの新しい時代の堆積層によって形成されている。また，この沖積層の下には第四紀洪積層後期に形成された洪積層が堆積しており，下層から竜ケ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層に分層される。

五霞町周辺の現在の利根川流域には，沖積低地と洪積台地が広がっている。利根川の北側では，利根川の支流によって開析された谷津が広がり，南側は，広大な沖積低地が広がっている。当遺跡は，現在の利根川が流れる低地に囲まれた，標高12～13mの低い洪積台地上に位置している。

遺跡周辺の土地利用状況は宅地であり，遺跡の現況は宅地であった。

第2節　歴　史　的　環　境

ここでは，山王中坪遺跡が所在する五霞町域周辺の遺跡[1]を中心に概要を述べる。

旧石器時代は，氷期のために現在の東京湾は陸地状態であり，利根川と渡良瀬川は現在の千葉県松戸付近で合流していた。土塔貝塚(江川貝塚)〈15〉ではナイフ形石器などが，利根川の北側に位置する羽黒遺跡や日下部遺跡で細石刃核や剥片が確認されていることから，既にこの地域で人々が生活していたことが分かる。

縄文時代は，縄文海進により，南から奥東京湾，東から古鬼怒湾が奥深く浸入してくる。五霞町域は，当時の海域に半島状に延びる猿島台地(五霞台地)の先端部に位置し，台地縁辺部に多くの遺跡や貝塚が分布し，寺山遺跡，宿北遺跡で早期の土器が確認されている。海進が最も進んだ前期は，遺跡数が多くなる時期で，居住に適した環境であったと想定される。当期の遺跡は，町域の東側に集中し，山王山貝塚〈9〉，土塔貝塚，山王浦B遺跡〈2〉などが確認されている。土塔貝塚の地点貝塚は鹹水種によって構成され，この地域は当時奥東京湾沿岸であったと考えられる。中期は，町域の北部に遺跡が多く立地する傾向が見られる。これは，海退により干潟域が広がり，居住域が移動したためと考えられている。小手指貝塚，前畑遺跡〈4〉，瀬沼遺跡〈37〉，東十一番遺跡〈36〉などが確認されている。後期には，さらに海退が進み，周辺海域が汽水域に変化したことが，冬木A貝塚や土塔貝塚の調査から判明している。遺跡の立地も海岸線を追うように南に移動し，前期の遺跡と同じ地域に多く見られるようになる。晩期に入ると，冬木B貝塚では，汽水種の他，淡水種も確認され，海岸線が後退し，淡水化していったと考えられる。本田遺跡〈30〉，南長井戸遺跡〈33〉もこの時期の遺跡である。

古墳時代には，利根川は大宮台地北部を越え，数本の流路に分かれて渡良瀬川の作った沖積低地に流れ込むようになる。この変遷の理由として柴田徹氏は，当時熊谷付近で合流していた荒川による土砂の堆積により，

河床が上昇したためという見解を示している[2]。この時期の遺跡は，瀬沼遺跡，同所新田遺跡〈17〉が確認されている。

古代には，五霞町域を含む下総国がたびたび水害を受けていたことが『続日本紀』・『日本三代実録』に記されている。かわい山遺跡〈34〉，土塔貝塚，同所新田遺跡がこの時期の遺跡である。

中世には，五霞町域を含む利根川・太日川流域に，下河辺荘が成立する。領主として秀郷流小山氏の庶流下河辺氏が，宝治合戦(1247 年)以降には北条氏一族が支配した。室町時代に入ると，鎌倉府の御料所の一つとして支配され[3]，足利成氏が古河に移座すると，鎌倉から奥州へ延びる奥大道が通過し，利根川・常陸川の流れる水上交通の要所であるこの地域を治める重要性は高まっていった。五霞町には野田氏の城山城跡（栗橋城跡），古河市には水海城跡，千葉県野田市には関宿城跡〈13〉，埼玉県幸手市には陣屋（幸手市No.３遺跡）など，古河公方重臣による城館が設けられた。町域では，石畑遺跡で方形竪穴遺構 14 基，新田遺跡〈11〉で堀跡１条・方形竪穴遺構８基・地下式坑３基，瀬沼遺跡で墓坑 11 基・火葬施設 41 基，桜井前遺跡〈14〉で火葬施設４基・方形竪穴遺構９基・地下式坑４基などが確認され，中世の集落や墓域が明らかになってきている。また，羽黒遺跡では河川工事の工事分担を示した表示札と考えられる木簡が出土している。また，この時代もこの地域がたびたび洪水の被害を受けていたことを伝える文書が存在している[4]。

江戸時代には，「利根川東遷」と呼ばれる大規模な河川改修工事が行われ，奥州から鬼怒川を下り，利根川・江戸川を下って江戸へと至る輸送ルートが成立した。経由地としての役割を担うようになる境河岸〈35〉は，関宿城の城下町として機能していく[5]一方，五霞町周辺では，洪水被害が頻発するようになった。天明３年（1783 年）の浅間山の大噴火により，文禄堤・中条堤による治水機能が低下すると，幕府は，江戸川流頭（現在と位置が異なり，かつての権現堂川と逆川の合流地点で，当遺跡より 1.5kmほど川下にあたる）に棒出しと呼ばれる突堤を設け，江戸川への流入量を制限した。これにより，江戸川流域は水害から守られたが，利根川沿いでは被害が増大した。この時期の遺跡としては，新田遺跡で水塚を配置した屋敷跡が調査されている。後期では，同所新田遺跡において製鉄関連遺構が確認され，工人集団の存在が指摘されている[6]。さらに，瀬沼遺跡からは船着場跡が確認され，水上交通が日常生活や経済活動の中で重要な位置をしめていたと推測される。

※　文中の〈　〉の番号は，第１図及び表１の当該番号と同じである。なお，本章は，既刊の『茨城県教育財団文化財調査報告』第 418 集をもとに，改編したものである。

註

1）茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図（地名編・地図編）』茨城県教育委員会　2001年３月

2）松戸市立博物館編『江戸川の社会史』同成社　2005年２月

3）五霞町史編さん委員会『町史　五霞の生活史　水と五霞』五霞町　2010年３月

4）註４に同じ

5）註４に同じ

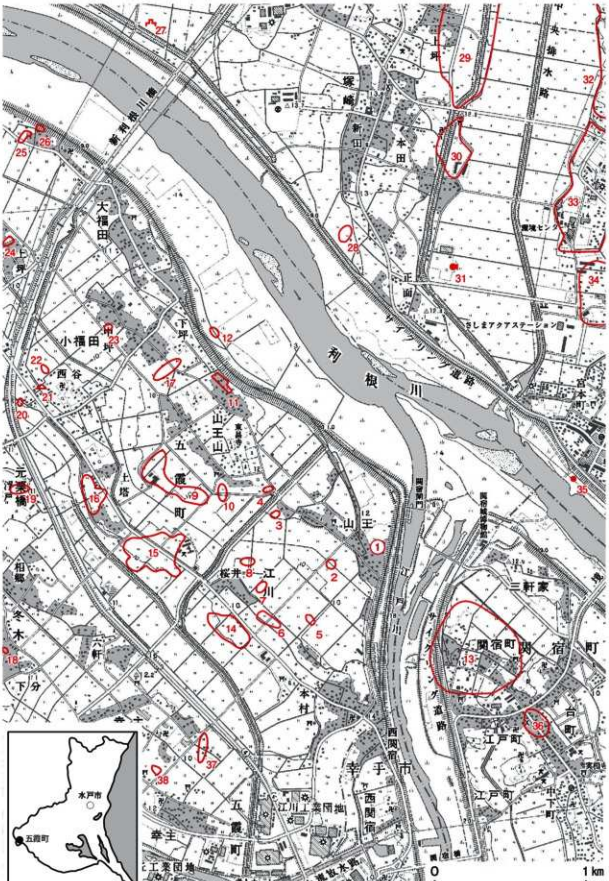
6）a　桑村裕「清水遺跡 同所新田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第290集　2008年３月

b　本橋弘巳「同所新田遺跡２　瀬沼遺跡２　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 312 集　2009 年３月

参考文献

・　蜂須紀夫ほか『茨城県　地学のガイド』コロナ社　1977 年８月

・　松浦茂樹『利根川近現代史』古今書院　2016 年８月

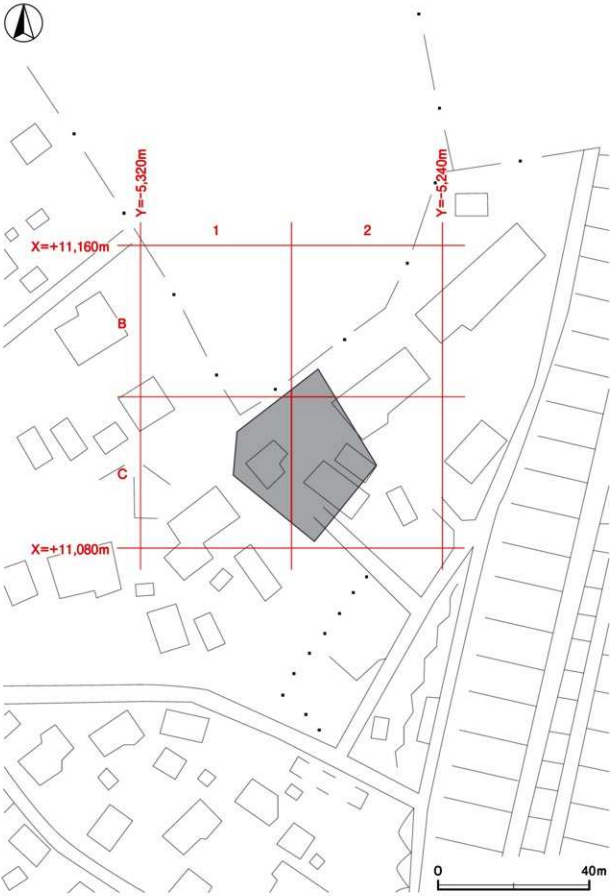


第1図　山王中坪遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の1「下総境」,「宝珠花」）

表1　山王中坪遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	山王中坪遺跡							○
2	山王浦B遺跡		○					
3	勘座下遺跡		○					
4	前畑遺跡		○					
5	山王浦遺跡		○					
6	桜井浦遺跡		○					○
7	桜井貝塚		○					
8	川岸貝塚		○					
9	山王山貝塚		○					
10	西新畑遺跡		○					
11	新田遺跡		○				○	
12	原山遺跡		○					
13	関宿城跡						○	○
14	桜井前遺跡						○	○
15	土塔貝塚	○	○			○		
16	土塔遺跡		○					
17	同所新田遺跡		○		○	○	○	
18	下分遺跡		○					
19	浮戸遺跡		○					

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
20	診療所前貝塚		○					
21	土塔塚遺跡						○	
22	八幡西遺跡		○					
23	西上手遺跡							○
24	東中村遺跡		○					
25	殿山遺跡		○		○			○
26	殿山塚							○
27	伝水海城跡						○	
28	清水遺跡		○		○			
29	上坪遺跡群		○					
30	本田遺跡		○		○		○	○
31	塚崎古墳				○			
32	長井戸遺跡群		○		○			
33	南長井戸遺跡		○		○			
34	かわい山遺跡		○		○	○		
35	境河岸							○
36	東十一番遺跡		○					
37	瀬沼遺跡		○		○		○	○
38	幸館遺跡		○					



第２図　山王中坪遺跡調査区設定図（五霞町都市計画図 2,500 分の１）

第3章　調 査 の 成 果

第1節 調 査 の 概 要

山王中坪遺跡は，五霞町の東部に位置し，利根川右岸の標高約 12 mの低台地上に立地している。調査面積は 988 ㎡で，調査前の現況は宅地である。

調査の結果，堤防跡１条（江戸時代），溝跡１条（江戸時代），井戸跡２基（時期不明），土坑 89 基（江戸時代 33，時期不明 56），柱穴列跡４条（時期不明），ピット群２か所（時期不明）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に６箱出土している。主な遺物は，土師質土器（蓋・灯明皿・小皿・焙烙・擂鉢），陶器（碗・皿・小皿・鉢・擂鉢・甕），磁器（碗・皿・猪口・瓶），土製品（管状土錘・管状陶錘），石器（砥石），金属製品（釘・煙管），銭貨などである。

第2節 基 本 層 序

調査区全域に近世以降の堆積が多く，攪乱も多かったため，基本層序はテストピットを設定して確認することができなかった。ここでは調査区域内で確認できた堆積状況を整理した模式柱状図として示す。調査区壁，トレンチ及び井戸内壁の土層等で確認したものである。

第１層は，表土である。層厚は場所によって異なる。

第２～４層は，堤防に関係する土層である。第３節を参照されたい。

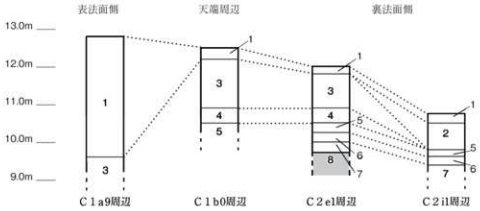
第５層は，黒褐色を呈する黒色土層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 20㎝ほどである。

第６層は，暗褐色を呈するローム漸移層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 20㎝ほどである。

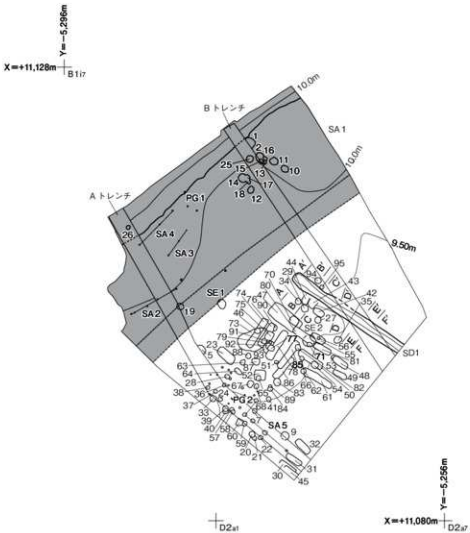
第７層は，褐色を呈するローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 20㎝ほどである。

第８層は，暗褐色を呈するローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は下層が未掘のため不明である。第２黒色帯に相当する。

遺構は，第５・７・９号土坑を第２層上面で，第１・２・10 ～ 19 号土坑を第４層上面で，それ以外の遺構を第５層の上面で確認した。



第３図　基本土層図



第１号堤防跡範囲

0　20m

第４図　遺構全体図

第3節 遺 構 と 遺 物

1　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，堤防跡１条，溝跡１条，土坑33基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　堤防跡

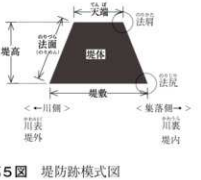
堤防について，以下の用語を使用する。

堤防用語解説

腹付け盛土…　既設の堤防盛土の横に，さらに盛土をして拡張すること。川裏に腹付けすることが望ましいが，用地の確保等問題がある場合，川表側に行う場合もある。

堤防法線……　堤防の表法肩を連ねる線。

堤防の各部分については，第５図を参照されたい。法面，法肩等堤体の両側に位置するものは，川表側を表法面，表法肩，川裏側を裏法面，裏法肩と呼称する。



第５図　堤防跡模式図

第１号堤防跡（第６～９図　PL １・２）

位置　調査区北部のＣ１c8～Ｃ２c4区に位置している。北側標高10.5ｍ，南側標高9.8ｍの緩やかに傾斜する低台地上に位置している。

重複関係　堤敷整地面を第１・２･10～19号土坑が，洪水で堆積した泥土層を第５・９号土坑が掘り込んでいる。

規模と形状　確認した長さは23.0ｍ，幅は7.2ｍで，堤防法線はＣ１c8区から東方向（Ｎ－46°－Ｅ）に向かってＢ１h2区まで続いている。確認した堤高は2.04ｍであるが，上部は削平されている。法面は表法がおおむね40度，裏法がおおむね30度で，断面形は台形状である。

整地面　堤体の構築前に，堤敷の面を整地した層が確認できた。

構築土　129層に分層できる。土層断面から，複数回の水害の痕跡が確認できる。以下，トレンチごとに構築土の堆積を説明する。Ａトレンチの第66～75層は，堤体の構築に先立ち堤敷の面を整地した層である。堤敷の左右両脇に第58～65層を盛って，土留めとし，その後，第45～57層を盛っている。第37～44層は，法 面を整えている層である。第32～36層は，堤防の崩落や洪水による堆積層である。第28～31層は，裏法面を整えていた層が法すべりを起して堆積した層である。第21～27層は，堤防が崩れて堆積した層である。第20層は，洪水により堆積した泥土である。第15～19層は，腹付け盛土の層である。第９～14層は，堤防が崩れて堆積した層である。第６～８層は，洪水により堆積した泥土の層である。第１～５層は，堤防が崩れて堆積した層である。第66～75層が基本層序第４層に，第15～65層が基本層序第３層に，第１～14層が基本層序第２層にあたる。

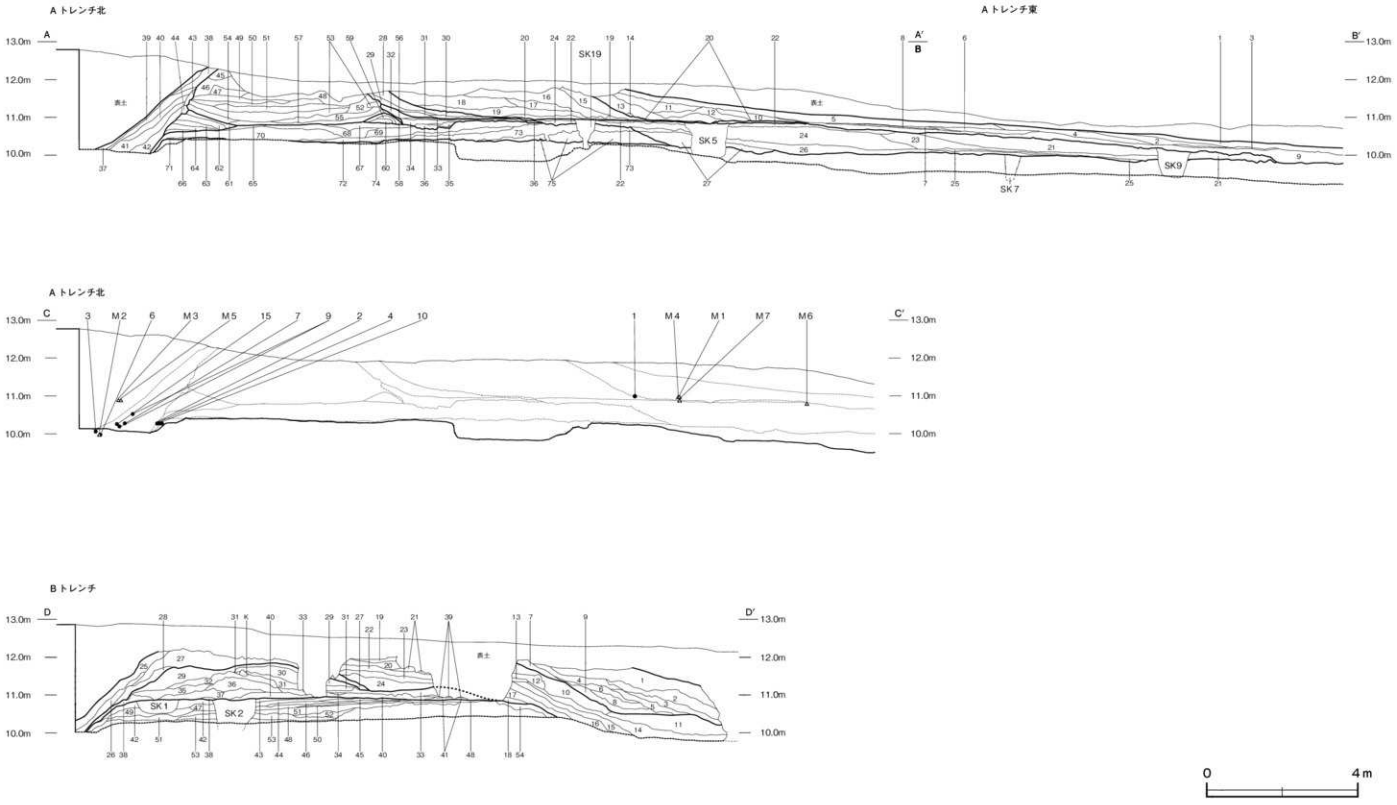
Ｂトレンチの第42～54層は，堤敷の面を整地した層で，その上に第29～41層を盛っている。第25～28層は，法面を整えている層である。第10～27層は，腹付け盛土の層である。第６～９層は，堤防が崩れて堆積した層である。第１～６層は，腹付け盛土の層である。第１層より以南には，Ａトレンチ同様の緩やかな傾斜を描いた堆積があったと思われるが，撹乱により確認できなかった。第42～54層が基本層序第４層に，第10～41層が基本層序第３層に，第１～９層が基本層序第２層にあたる。

Aトレンチ土層解説

1 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物少量
2 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量(第30層より締まり強く、B第4層より粘性弱い)
3 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量、炭化物中量
4 黒 色 粘土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子微量
5 黒 褐 色 ローム ブロック多量、粘土ブロック中量
6 灰 黄 褐 色 ローム ブロック・炭化物中量、粘土ブロック少量
7 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量、炭化粒子少量
8 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量(第19層より粘性弱く、締まり強い)
9 にぶい黄褐色 ローム ブロック・粘土ブロック中量
10 暗 褐 色 ローム粒子多量(B第32層より粘性・締まりともに弱い)
11 暗 褐 色 ローム ブロック中量
12 暗 褐 色 ローム ブロック多量(第23層より締まり強い)
13 灰 白 色 砂粒多量
14 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量、炭化物少量
15 暗 褐 色 ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量
16 褐 色 ローム ブロック中量
17 黒 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック中量、炭化物少量
18 にぶい黄褐色 ローム粒子多量(第35層より締まり弱い)
19 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量(第8層より粘性強く、締まり弱い)
20 暗 褐 色 炭化物中量、焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子微量
21 暗 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック微量
22 褐 色 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
23 暗 褐 色 ローム ブロック多量(第12層より締まり弱い)
24 暗 褐 色 ローム ブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量
25 黒 褐 色 粘土ブロック多量
26 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック少量
27 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、ローム ブロック少量
28 黒 褐 色 粘土ブロック中量、ローム ブロック少量
29 暗 褐 色 ローム ブロック少量、粘土ブロック微量
30 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量(第2層より締まり弱く、B第4層より粘性弱い)
31 暗 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
32 黒 褐 色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量
33 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量(第63層より粘性強い)
34 黒 褐 色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
35 にぶい黄褐色 ローム粒子多量(第18層より締まり強い)
36 暗 褐 色 砂粒中量、ローム粒子少量
37 にぶい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
38 暗 褐 色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
39 灰 黄 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量、砂粒微量
40 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
41 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
42 暗 褐 色 ローム ブロック中量、粘土ブロック少量(B第3層より粘性・締まりともに弱い)
43 暗 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
44 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化物少量
45 褐 色 粘土ブロック中量、炭化物・ローム粒子・砂粒少量
46 にぶい黄褐色 ローム ブロック中量、粘土ブロック少量
47 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量、炭化物微量
48 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム ブロック少量
49 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、ローム ブロック中量、炭化物少量
50 暗 褐 色 粘土ブロック多量、炭化物中量、ローム ブロック少量
51 褐 色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量
52 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量
53 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、ローム ブロック中量
54 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック少量
55 褐 色 粘土ブロック多量、ローム ブロック・砂粒中量
56 にぶい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量
57 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量
58 にぶい黄褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
59 暗 褐 色 ローム粒子中量、粘土ブロック微量
60 にぶい黄褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量
61 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ローム ブロック・炭化粒子少量
62 暗 褐 色 ローム ブロック中量、粘土ブロック微量
63 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量(第33層より粘性弱い)
64 暗 褐 色 粘土ブロック多量、ローム粒子・砂粒少量
65 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
66 黒 褐 色 粘土ブロック中量
67 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
68 暗 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量
69 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量
70 黒 褐 色 ローム ブロック中量(第73層より粘性弱い)
71 黒 褐 色 ローム粒子中量、砂粒少量
72 にぶい黄褐色 砂粒多量
73 黒 褐 色 ローム ブロック中量(第70層より粘性強い)
74 にぶい黄褐色 砂粒多量、粘土ブロック少量
75 にぶい黄褐色 ローム ブロック多量

Bトレンチ土層解説

1 暗 褐 色 粘土ブロック多量、ローム ブロック・炭化物少量
2 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ローム ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム ブロック中量、粘土ブロック少量(A第42層より粘性・締まりともに強い)
4 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量(A第2層より粘性強く、A第30層より締まり強い)
5 暗 褐 色 粘土ブロック多量、炭化物・ローム粒子少量
6 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子中量
7 黒 褐 色 粘土ブロック中量、炭化物少量、ローム ブロック微量
8 暗 褐 色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量(第19層より締まり強い)
9 暗 褐 色 ローム ブロック多量、粘土ブロック中量
10 暗 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック中量、炭化物少量
11 褐 色 ローム ブロック多量、粘土ブロック・炭化物少量
12 褐 灰 色 粘土ブロック多量
13 暗 褐 色 粘土ブロック中量
14 暗 褐 色 粘土ブロック・炭化物少量
15 暗 褐 色 砂粒中量
16 暗 褐 色 粘土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量
17 暗 褐 色 ローム ブロック中量、粘土ブロック少量
18 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
19 暗 褐 色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量(第8層より締まり弱い)
20 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
21 黒 褐 色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
22 暗 褐 色 ローム ブロック中量、炭化物少量(第51層より締まり弱い)
23 黒 褐 色 ローム ブロック中量、焼土粒子微量
24 黒 褐 色 ローム ブロック少量、焼土ブロック微量
25 にぶい黄褐色 ローム ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
26 暗 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
27 暗 褐 色 ローム粒子多量、礫少量、粘土ブロック・炭化物微量
28 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック・砂粒少量
29 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量(第32層より締まり弱い)
30 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子中量、礫少量
31 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
32 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量(第29層より締まり強い)
33 暗 褐 色 ローム粒子・砂粒少量
34 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・礫・砂粒少量
35 黒 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量
36 暗 褐 色 粘土ブロック・砂粒中量、ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物少量
37 暗 褐 色 ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物少量、砂粒微量
38 褐 色 ローム粒子・砂粒中量
39 黄 褐 色 ローム粒子・砂粒中量、粘土ブロック・赤色粒子少量
40 にぶい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量
41 暗 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック少量
42 暗 褐 色 粘土ブロック多量、ローム粒子・砂粒中量



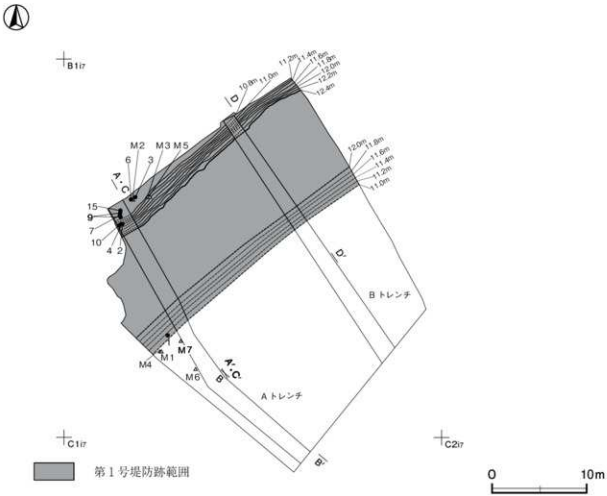
第6図　第1号堤防跡実測図 (1)

43　暗　褐　色　ローム粒子中量,粘土ブロック・炭化物・砂粒少量
44　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量,焼土粒子・砂粒微量
45　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
46　にぶい黄褐色　粘土ブロック・ローム粒子中量,砂粒少量
47　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量,砂粒少量
48　褐　　色　ロームブロック中量,粘土ブロック少量
49　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量
50　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量
51　暗　褐　色　ロームブロック中量,炭化物少量(第22層より締まり強い)
52　暗　褐　色　ローム粒子多量(A第10層より粘性・締まりともに強い)
53　黒　　色　ロームブロック中量
54　黒　褐　色　ロームブロック少量

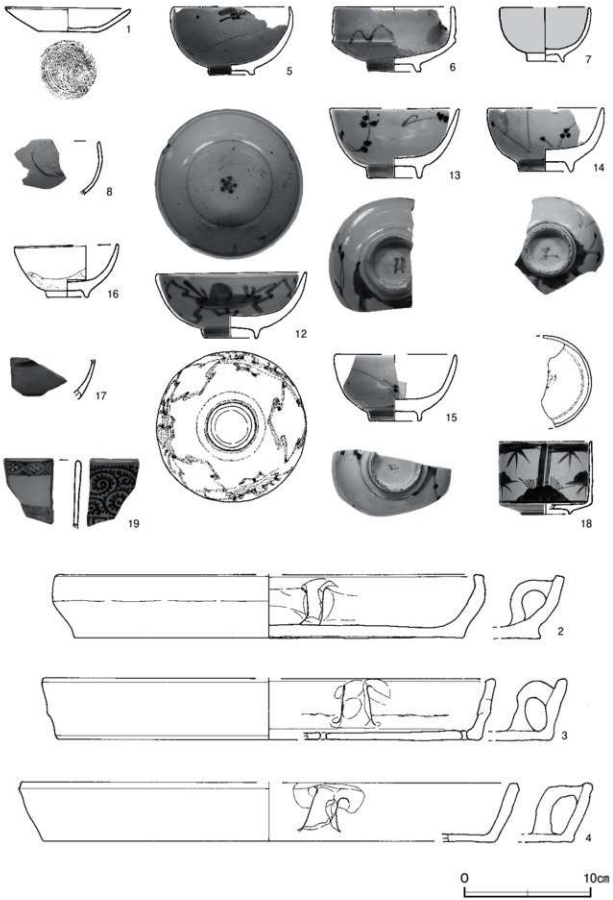
土層解説において,同一トレンチの層を指す場合には,単に層番号を記し,別のトレンチの層を指す場合には,トレンチ番号を冠して,層番号を記述した。(例：A第10層…Aトレンチの第10層を指す。)

遺物出土状況　土師質土器片29点(灯明皿1,小皿4,焙烙24),陶器片15点(碗10,擂鉢5),磁器片10点(碗9,猪口1),瓦質土器片1点（甕),金属製品5点（刀子$_{身}$1，釘4),銭貨2枚（寶永通寶・寛永通寶),石器1点（砥石）のほか,土師器片1点（甕),縄文土器片1点（深鉢）が出土している。2～4・6・7・10・15は,表法尻付近の法面を整えている層から出土している。増水時に上流から流された遺物が,法尻に残留し,埋没したものと考えられる。川裏側からの出土である1，M1・M4・M6・M7は第13・20層で出土しており,越水により上流から運ばれてきた遺物が,裏法面に残留し,その後埋没したものと考えられる。

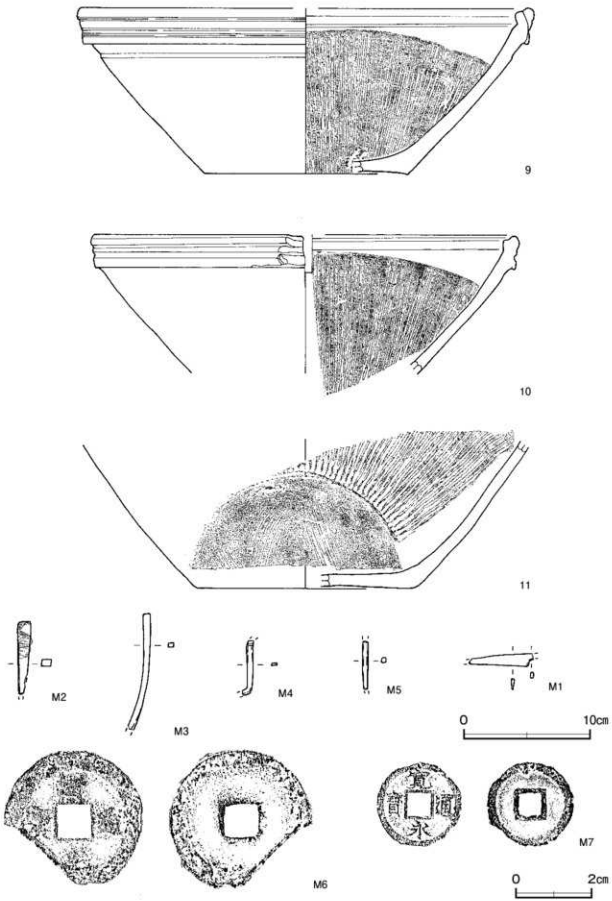
所見　確認した範囲については,周辺の東遷事業の状況や出土遺物から17世紀中葉から18世紀中葉に築堤されたものと考えられる。



第７図　第１号堤防跡実測図(2)



第８図　第１号堤防跡出土遺物実測図 (1)



第９図　第１号堤防跡出土遺物実測図 (2)

第１号堤防跡出土遺物観察表（第８・９図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	灯明皿	9.8	1.9	4.6	長石・石英	黒褐	普通	底部回転糸切り	第13層	90%　PL 5 煤付着
2	土師質土器	坩堝	[32.8]	5.0	[30.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	内面１か所遺存	第42層	40% 煤付着
3	土師質土器	坩堝	[35.7]	4.9	[33.7]	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面１か所遺存　耳が内側から底部に跨って付く 底部に補修口２か所　指頭痕	第39-41層	20% 煤付着
4	土師質土器	坩堝	[39.4]	4.7	[36.0]	長石	にぶい黄橙	普通	内面１か所遺存　耳が内側から底部に跨って付く	第42層	5% 外面煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
5	陶器	碗	[9.2]	5.4	3.6	黒色粒子・灰白	外面草文	灰釉・鉄釉	肥前。	覆土中	70%　PL 4
6	陶器	碗	9.3	5.2	4.1	石英・黒色粒子 灰白	外面波線文	灰釉	瀬戸・美濃	第39-41層	70%
7	陶器	碗	[7.0]	4.3	3.0	黒色粒子・淡黄	削り出し高台	灰釉	京・信楽	第39-41層	60% 内部に鉄釉。
8	陶器	碗	－	(4.2)	－	石英・黒色粒子・赤色粒子・灰白	外面菖蒲文	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	5％　PL 5
9	陶器	擂鉢	[36.2]	(13.2)	[16.2]	長石・黒色粒子 赤褐	口縁部折り返し　擂り目８条一単位	無釉	堺	第39-41層	30%　PL 4
10	陶器	擂鉢	[33.4]	(11.0)	－	長石・石英・雲 灰赤	擂り目６条一単位　底部擂り目８条一単位	無釉	堺	第42層	10%
11	陶器	擂鉢	－	(11.9)	[17.4]	長石・石英 にぶい赤褐	口縁部折り返し　擂り目８条一単位	無釉	明石	覆土中	20%　PL 4
12	磁器	碗	11.7	5.2	4.2	緻密・灰白	染付　呉須　外面松笠文松皮菱文	透明釉	波佐見	覆土中	100%　PL 4
13	磁器	碗	[10.2]	5.5	4.2	緻密・灰白	染付　呉須　外面草花文	透明釉	瀬戸・美濃	覆土中	30%　PL 4
14	磁器	碗	[9.1]	5.1	4.2	緻密・灰白	染付　呉須　外面草花文	透明釉	波佐見	覆土中	60%　PL 4
15	磁器	碗	[9.5]	5.3	4.0	緻密・灰白	染付　呉須　外面梅文	透明釉	波佐見	第39-41層	20%
16	磁器	碗	[8.1]	4.2	3.2	緻密・灰白	染付　呉須　外面草文その後石灯籠土施行	透明釉	肥前	覆土中	30%　PL 5
17	磁器	碗	－	(3.2)	－	緻密・灰白	染付　呉須	透明釉	波佐見	覆土中	5％
18	磁器	碗	[7.2]	5.7	[3.8]	緻密・灰白	染付　呉須　口縁部内面二重圏線 見込み二重圏線　外面竹文　高台付	透明釉	肥前	覆土中	40%
19	磁器	猪口	－	(5.4)	－	緻密・灰白	染付　呉須　口縁部内面圏四方襷 外面植物草文	透明釉	肥前	覆土中	10%　PL 6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M１	刀子。	(5.2)	1.0	(0.3)	(3.80)	鉄	端部・基部欠損　刃部断面三角形	第13層	
M２	釘。	(5.8)	1.0	0.5	(15.03)	鉄	断面長方形　木質付着	第39-41層	
M３	釘。	(9.3)	0.7	0.4	(8.79)	鉄	断面長方形	第39-41層	
M４	釘。	(4.4)	(0.5)	(0.3)	(2.80)	鉄	断面長方形	第13層	
M５	釘	(3.9)	(0.5)	(0.4)	(2.75)	鉄	断面長方形　平釘	第39-41層	

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M６	銭貨	寛永通寶	3.74	0.90	(5.85)	銅	1708	一部欠損　歪み	第20層	PL 6
M７	銭貨	寛永通寶	2.32	0.63	(2.25)	銅	1668	新寛永	第20層	

(2)　溝跡

第１号溝跡（第４・10図）

位置　調査区南部のＣ２d3～Ｃ２f5区，標高10ｍほどの低台地上に位置している。

重複関係　第１号堤防跡の堤敷の整地面を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｃ２d3区から南方向（Ｎ－125°－Ｅ）に延び，Ｃ２f5区まで直線状に13.8ｍ続いている。規模は，上幅1.04～1.36ｍ，下幅0.36～0.86ｍで，深さは45～56㎝である。断面形はＵ字状で，壁面は外傾している。

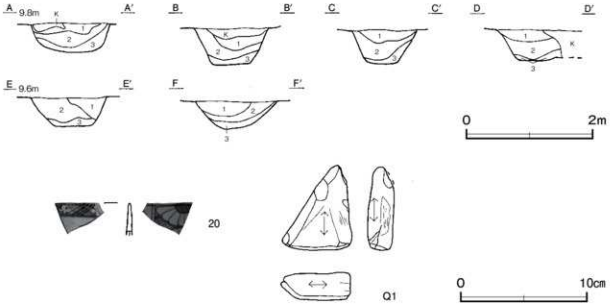
覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから，埋め戻されている。

土層解説

１　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量
２　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
３　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　陶器片４点（碗），磁器片１点（碗），石器１点（砥石）が出土している。

所見　時期は，位置関係や出土土器から18世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第10図　第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
20	磁器	碗	－	(2.5)	－	緻密・灰白	染付　唐草　内面四方襷　外面菊花文	透明釉	肥前	覆土中	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	6.7	5.5	2.1	(89.1)	砂岩	砥面3面	覆土中	PL 6

(3)　土坑

当時代に属すると考えられる土坑を33基確認した。確認した位置や形状から，3つに分けて掲載する。(ア)は，堤敷の整地面を掘り込んでいる円筒形の土坑である。(イ)は，堤内にあたる調査区南部で確認された長方形の土坑である。(ウ)は，それ以外である。

(ア)　堤敷の整地面を掘り込んでいる円筒形の土坑

該当する土坑は12基である。このうち，遺物が出土した土坑2基については文章で記述し，それ以外の土坑10基については，実測図（第13図）及び土層解説にて掲載する。

第2号土坑（第11図）

位置　調査区北部のC 2a2区，標高11ｍほどの堤敷の整地面に位置している。

重複関係　第1号堤防跡の堤敷の整地面を掘り込み，第13号土坑に掘り込まれている。第15・16号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　長径1.28ｍ，短径0.88ｍの不整楕円形で，長径方向はN－5°－Wである。深さは100㎝で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

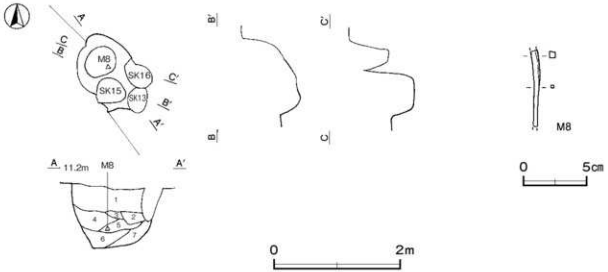
覆土　7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　金属製品１点（釘。）が出土している。

所見　時期は，堤防との重複関係から 18 世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第 11 図　第２号土坑・出土遺物実測図

第２号土坑出土遺物観察表（第 11 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	釘。	(6.1)	0.5	0.5	(5.60)	鉄	断面長方形	第５層	

第 14 号土坑（第 12 図）

位置　調査区北部のＣ２ａ１区，標高 11 mほどの堤敷の整地面に位置している。

重複関係　第１号堤防跡の堤敷の整地面を掘り込んでいる。第 17・18 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 0.92 m，短径 0.84 mの円形で，深さは 84 ㎝で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

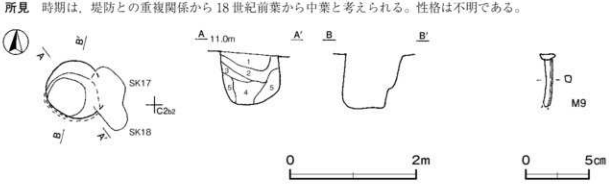
覆土　５層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれている層が多いことから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，粘土ブロック･焼土粒子･炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック･焼土粒子･炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック･焼土粒子･炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック･焼土粒子･炭化粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　金属製品１点（釘）が出土している。

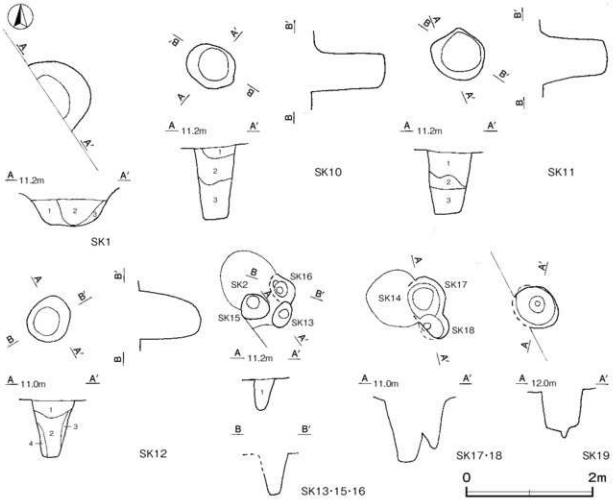
所見　時期は，堤防との重複関係から 18 世紀前葉から中葉と考えられる。性格は不明である。



第 12 図　第 14 号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表（第12図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	釘	(4.4)	1.2	0.5	(3.18)	鉄	断面方形　頭巻釘	覆土中	



第13図　第1・10～13・15～19号土坑実測図

第1号土坑層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第10号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量

第11号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量

第12号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
3　にぶい褐色　粘土ブロック・ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量

第13号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

(イ)　調査区南部で確認された長方形の土坑

該当する土坑は15基である。このうち，遺物が出土した土坑6基については文章で記述する。時期が明確な出土遺物はないが，形状・長軸方向・配置・覆土の様相から，当時代の遺構と考えられる土坑9基については，実測図（第20・21図）及び土層解説にて掲載する。

第47号土坑（第14図）

位置　調査区中央部のＣ２ｅ２区，標高10ｍほどの低地面に位置している。

重複関係　第70・80号土坑に掘り込まれている。

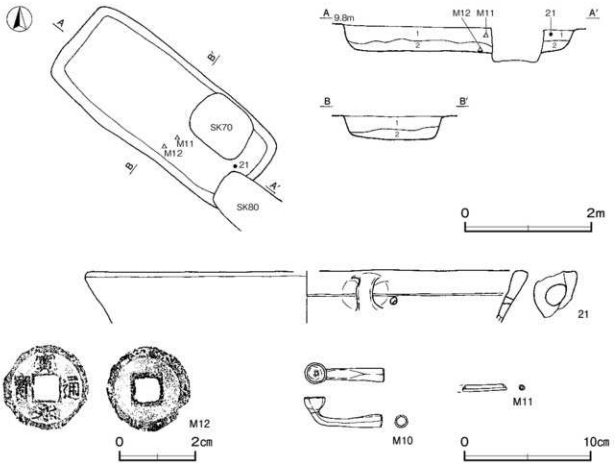
規模と形状　長軸3.64ｍ，短軸1.60ｍの長方形で，長軸方向はＮ－52°－Ｗである。深さは36cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，粘土ブロック微量　　2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，粘土ブロック微量

遺物出土状況　土師質土器片５点（焙烙），金属製品２点（煙管），銭貨１枚（寛永通寶）が出土している。21は斜位の状態で出土している。

所見　時期は，出土遺物から17世紀後葉から18世紀前葉に比定できる。性格は，形状や出土遺物から墓坑の可能性が考えられる。



第14図　第47号土坑・出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	土師質土器	焙烙	[35.0]	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	内耳１か所残存　体部に補修口１か所	第１層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	煙管	6.3	1.5	2.3	8.06	銅	雁首　石州	覆土中	PL６
M11	煙管	(3.6)	(0.5)	(0.5)	(1.59)	銅	吸い口　石州	第１層	

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M12	銭貨	寛永通寶	2.25	0.65	(1.88)	銅	1668	新寛永　永の ノ爪少し長い	底面	

第 50 号土坑（第 15 図）

位置　調査区南部のＣ２f3 区，標高 10 mほどの低台地上に位置している。

重複関係　第 54・66 号土坑に掘り込まれている。

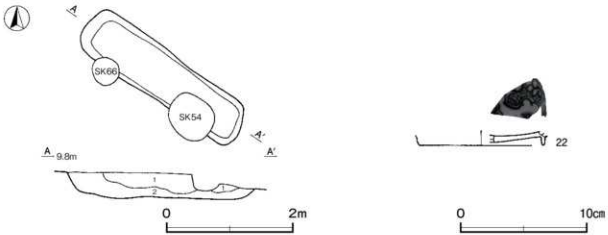
規模と形状　長軸 3.00 m，短軸 0.82 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 55°－Ｗである。深さは 40㎝で，底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土　２層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　磁器片１点（皿）のほか，土師器片１点（甕）が出土している。

所見　時期は，周辺遺構との位置関係や出土土器から 18 世紀後葉と考えられる。性格は，形状から墓坑の可能性が考えられる。



第 15 図　第 50 号土坑・出土遺物実測図

第 50 号土坑出土遺物観察表（第 15 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
22	磁器	皿	－	(1.2)	[10.0]	緻密・明緑灰	染付　外面　内面草花文	透明釉	肥前	覆土中	5％

第 70 号土坑（第 16 図）

位置　調査中央部のＣ２e3 区，標高 10 mほどの低台地上に位置している。

重複関係　第 47 号土坑を掘り込んでいる。

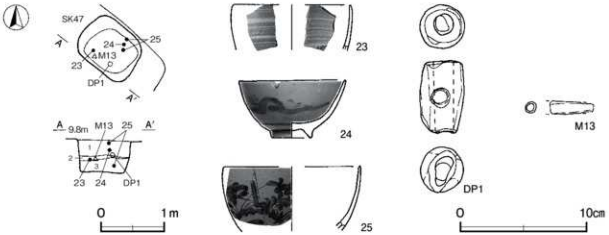
規模と形状　長軸 1.00 m，短軸 0.80 mの長方形で，長軸方向はＮ－ 49°－Ｗである。深さは 50㎝で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が多いことから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　土師質土器片２点（小皿），陶器片１点（碗），磁器片２点（碗），土製品１点（管状陶錘），金属製品１点（煙管）が出土している。25 は第１層と第３層から出土した破片が接合した。

所見　時期は，出土土器から18世紀後葉と考えられる。性格は，形状や出土遺物から墓坑の可能性がある。



第16図　第70号土坑・出土遺物実測図

第70号土坑出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
23	陶器	碗	[9.3]	(3.7)	－	長石・黒色粒子 にぶい橙	内・外面刷毛目	灰釉・白泥・透明釉	肥前	第2層	10%
24	磁器	碗	8.4	4.7	3.3	緻密・明緑灰	染付　呉須　外面高台際一重圏線	透明釉	波佐見	第2層	50%　PL 4
25	磁器	碗	[10.9]	(5.1)	－	緻密・灰白	染付　呉須　外面草花文	透明釉	肥前	第1・3層	20%　PL 6

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	管状関錘	3.5	5.8	1.7～2.4	77.91	長石・黒色粒子	暗褐	無釉　外面に刻印「○」一か所	第2層	100%　PL 6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	煙管	(4.5)	0.9	0.9	(1.50)	銅	口元円形	第2層	

第74号土坑（第17図）

位置　調査区中央部のＣ２f2区，標高10ｍほどの低台地上に位置している。

重複関係　第46・73号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.44ｍ，短軸0.68ｍの長方形で，長軸方向はＮ－34°－Ｅである。深さは30cmで，底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

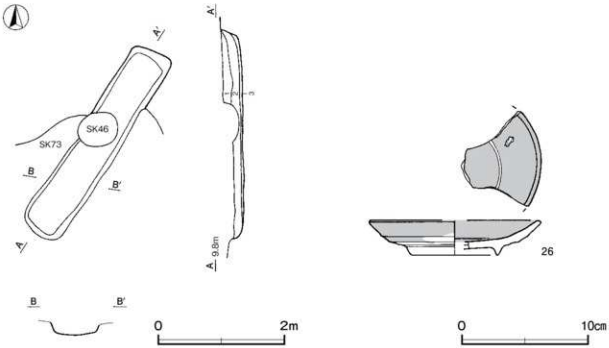
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　陶器片１点（小皿）が出土している。

所見　時期は，周辺遺構との位置関係や出土土器から18世紀中葉と考えられる。性格は，形状から墓坑の可能性がある。

第74号土坑出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
26	陶器	小皿	[13.7]	2.8	[6.9]	長石・浅黄	内面トチン痕　蛇の目釉剥ぎ 高台無釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	30%



第 17 図　第 74 号土坑・出土遺物実測図

第 75 号土坑（第 18 図　PL 3）

位置　調査区中央部のＣ２f2 区，標高 10 mほどの低台地上に位置している。

重複関係　第 76・79 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 0.96 m，短軸 0.80 m の長方形で，長軸方向はＮ－ 32°－Ｅである。深さは 26㎝で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

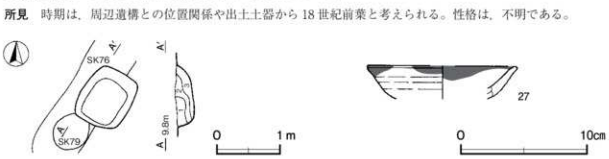
覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（灯明皿）が出土している。

所見　時期は，周辺遺構との位置関係や出土土器から 18 世紀前葉と考えられる。性格は，不明である。



第 18 図　第 75 号土坑・出土遺物実測図

第 75 号土坑出土遺物観察表（第 18 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
27	土師質土器	灯明皿	[11.8]	(2.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土中	20% 油煙付着

第77号土坑（第19図　PL２）

位置　調査区中央部のＣ２f2区，標高10ｍほどの低台地上に位置している。

重複関係　第78・92・93号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸0.66ｍ，短軸0.62ｍの方形で，長軸方向はＮ－65°－Ｗである。深さは52cmで，底面は平坦である。壁は直立している。

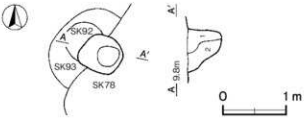
覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

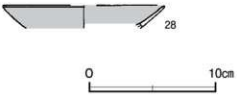
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（皿）が出土している。

所見　時期は，周辺遺構との位置関係や出土土器から18世紀中葉から後葉と考えられる。性格は，形状から墓坑の可能性が考えられる。





第19図　第77号土坑・出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
28	陶器	皿	[12.8]	(1.8)	－	黒色粒子・灰白	口縁部から内面にかけて銅緑釉	透明釉・銅緑釉	不明	覆土中	10%

第48号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量

第49号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量

第61号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・黒色粒子微量

第76号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量（第２層より締まり強い）
2　黒　褐　色　ロームブロック中量（第１層より締まり弱い）
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第78号土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量

第80号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　　色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック多量

第81号土坑土層解説

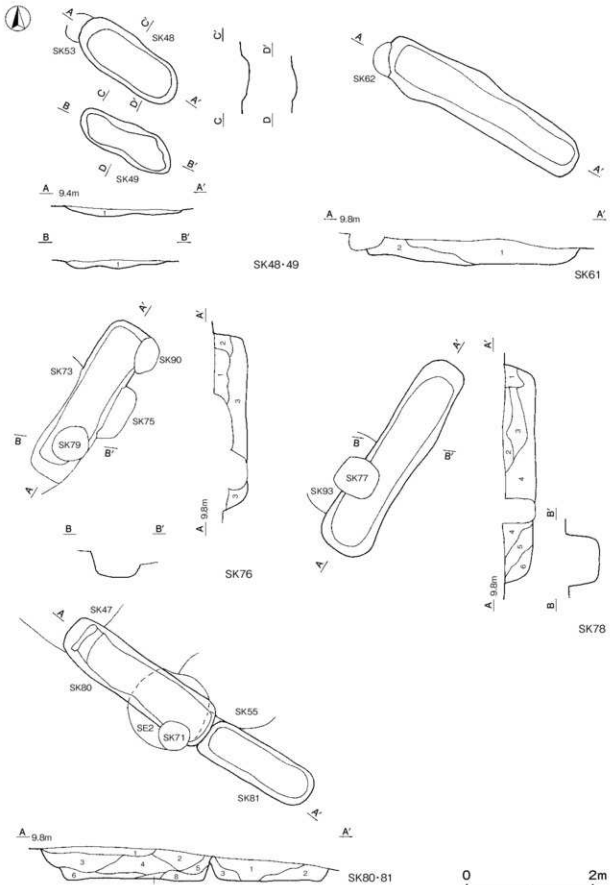
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量

第85号土坑土層解説

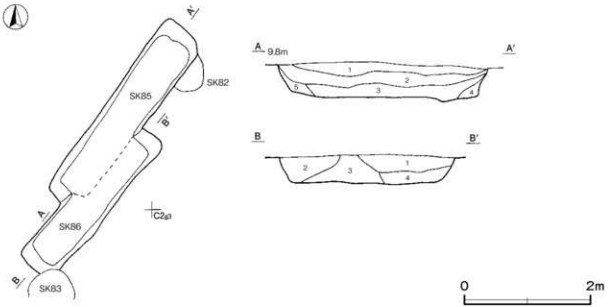
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量（第５層より粘性・締まり弱い）
5　黒　褐　色　ロームブロック微量（第４層より粘性・締まり強い）

第86号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量



第20図　第48・49・61・76・78・80・81号土坑実測図



第21図　第85・86号土坑実測図

(ウ)　その他の土坑

該当する土坑は6基である。このうち，遺物が出土した土坑5基については文章で記述し，それ以外の土坑1基については，実測図（第27図）及び土層解説にて掲載する。

第9号土坑（第22図）

位置　調査区南部のC 2h2区，標高10mほどの低台地上に位置している。

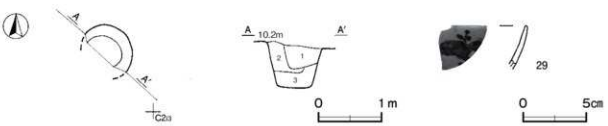
規模と形状　長径は0.88mで，短径は0.52mだけ確認できた。形状は楕円形と推定され，長径方向はN－48°－Wである。深さは72cmで，底面は平担である。壁はほぼ直立している。

覆土　3層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が多いことから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量　　3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況　磁器片1点（碗），土師質土器片1点（焙烙）が出土している。

所見　時期は，周辺遺構との位置関係や出土土器から18世紀後葉から19世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第22図　第9号土坑・出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
29	磁器	碗	－	(3.5)	－	緻密　灰白	染付　呉須　外面草花文	透明釉	肥前	覆土中	5％

第 51 号土坑（第 23 図）

位置　調査区南部のＣ２f2 区，標高 10ｍほどの低台地上に位置している。

規模と形状　径 0.40ｍの円形である。深さは 38㎝で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量　　2　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　磁器片１点（碗）が出土している。

所見　時期は，周辺遺構との位置関係や出土土器から 18 世紀前葉と考えられる。性格は，不明である。

第 23 図　第 51 号土坑・出土遺物実測図

第 51 号土坑出土遺物観察表（第 23 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様　の　特　徴	釉　薬	産　地	出土位置	備　考
30	磁器	碗	－	(4.1)	－	緻密　灰白	染付　呉須　内面口縁部一重圏線 外面口縁部二重圏線	透明釉	肥前	覆土中	5％

第 63 号土坑（第 24 図）

位置　調査区中央部のＣ２f1 区，標高 10ｍほどの低台地上に位置している。

規模と形状　長径 0.60ｍ，短径 0.50ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 38°－Ｅである。深さは 44㎝で，底面は皿状である。壁はほぼ直立している。

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量　　3　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量　　4　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙），陶器片２点（碗），磁器片３点（碗）が出土している。

所見　時期は，出土土器から 19 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。

第 24 図　第 63 号土坑・出土遺物実測図

第63号土坑出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
31	磁器	碗	－	(5.6)	－	緻密 灰白	染付 呉須 内面仕切り草花文 外面波銭文	透明釉	肥前	覆土中	5％ PL.6
32	磁器	碗	－	(3.5)	－	緻密 灰白	染付 呉須 内面口縁部本銭文の圏線 外面蕉葉文	透明釉	瀬戸・美濃	覆土中	5％
33	磁器	碗	[10.6]	6.0	[5.0]	緻密 灰白	染付 呉須 外面草花文 高台脇一重圏線 高台二重圏線文	透明釉	肥前	覆土中	20％

第73号土坑（第25図）

位置 調査区中央部のＣ２f1区，標高10ｍほどの低台地上に位置している。

重複関係 第74・76号土坑を掘り込み，第46・75・79号土坑に掘り込まれている。

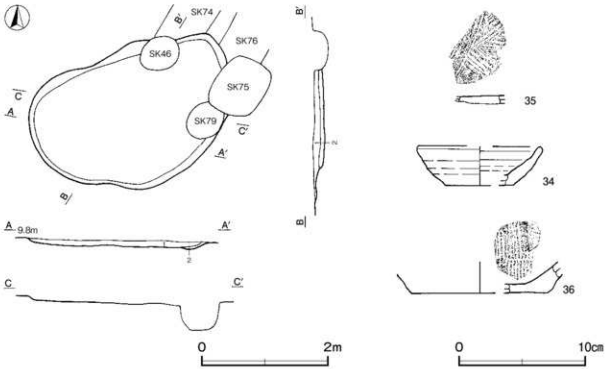
規模と形状 長径3.30ｍ，短径2.20ｍの不定形で，長径方向はＮ－71°－Ｅである。深さは14cmで，底面は平坦である。壁は緩斜している。

覆土 ２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量　　2 黒 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片２点（小皿１，擂鉢１），陶器片１点（擂鉢）のほか，土師器片１点（坏）が出土している。

所見 時期は，出土土器から18世紀中葉から後葉と考えられる。性格は，不明である。



第25図 第73号土坑・出土遺物実測図

第73号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	土師質土器	小皿	[9.6]	3.1	[5.4]	長石	浅黄橙	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	30％
35	土師質土器	擂鉢	－	(0.7)	－	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	擂り目６条一単位 見込みクロスパターンによる擂目	覆土中	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
36	陶器	擂鉢	－	(2.5)	[11.0]	長石・灰	擂り目11条一単位	鉄釉	不明	覆土中	5％

第 90 号土坑（第 26 図　PL 3）

位置　調査区中央部のＣ２e2 区，標高 10 m ほどの低台地上に位置している。

重複関係　第 76 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.60 m，短径 0.34 m の楕円形で，長径方向はＮ－ 20°－Ｅである。深さは 54 cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

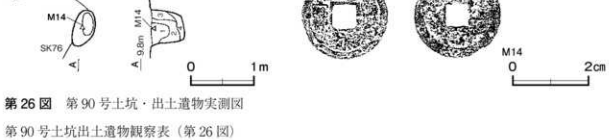
覆土　4 層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況から，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片 1 点（小皿），銭貨 1 枚（寛永通寶）が出土している。

所見　時期は，周辺遺構との位置関係や出土土器から 18 世紀中葉から後葉と考えられる。性格は，不明である。



第 26 図　第 90 号土坑・出土遺物実測図

第 90 号土坑出土遺物観察表（第 26 図）

番号	種　別	銭　名	径	孔径	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M14	銭貨	寛永通寶	2.32	0.64	(2.05)	銅	1668	折寛永。	第 1 層	

第 27 図　第 5 号土坑実測図

第 5 号土坑土層解説

1　灰 黄 褐 色　粘土ブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量

表２　江戸時代土坑一覧表

(7)　堤敷の整地面を掘り込んでいる円筒形の土坑

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
1	B2j1	N－33°－W	[楕円形]	1.20 × (0.60)	42	外傾	平坦	人為		
2	C2a2	N－5°－W	不整楕円形	1.28 × (0.88)	100	ほぼ直立	平坦	人為	金属製品	SA1→本跡→SK13 SK15・16と重複
10	C2a2	N－59°－W	楕円形	0.78 × 0.68	104	直立	平坦	人為		
11	C2a2	N－65°－W	楕円形	0.88 × 0.76	90	直立	平坦	人為	土師質土器	
12	C2b1	N－11°－W	楕円形	0.78 × 0.64	92	直立	皿状	人為		
13	C2a2	N－28°－E	楕円形	0.42 × 0.32	60	外傾	皿状	人為		SK 2→本跡 SK16と重複
14	C2a1	－	円形	0.92 × 0.84	84	ほぼ直立	平坦	人為	金属製品	SA 1→本跡 SK17・18と重複

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
15	C2a2	－	円形	0.48 × 0.48	84	直立	皿状	人為		SK2·13·16と重複
16	C2a2	N－11°－W	不整楕円形	0.52 × 0.38	68	ほぼ直立	平坦	人為		SK 2 ·13と重複
17	C2a1	N－1°－E	［楕円形］	(0.62) × (0.56)	98	ほぼ直立	平坦	人為		SK14·18と重複
18	C2b1	N－46°－W	楕円形	0.48 × 0.36	78	ほぼ直立	U字状	人為		SK14·17と重複
19	C1e0	N－35°－W	［楕円形］	0.70 × (0.62)	74	直立	平坦	人為		

(イ) 調査区南部で確認された長方形の土坑

番号	位置	長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸×短軸（m）	深さ（cm）					
47	C2e2	N－52°－W	長方形	3.64 × 1.60	36	ほぼ直立	平坦	人為	土師質土器，金属製品	本跡→SK70·80
48	C2f4	N－53°－W	隅丸長方形	1.82 × 0.76	12	緩斜	平坦	不明		SK53→本跡
49	C2g4	N－60°－W	隅丸長方形	1.60 × 0.62	10	緩斜	凸凹	人為		
50	C2f3	N－55°－W	隅丸長方形	3.00 × 0.82	40	外傾	平坦	人為	磁器	本跡→SK54·66
61	C2g3	N－58°－W	隅丸長方形	3.58 × 0.80	40	外傾	平坦	人為		本跡→SK62
70	C2e3	N－49°－W	長方形	1.00 × 0.80	50	ほぼ直立	平坦	人為	陶器，磁器，土製品，金属製品	SK47→本跡
74	C2f2	N－34°－E	長方形	3.44 × 0.68	30	外傾	平坦	人為	陶器	本跡→SK46·73
75	C2f2	N－32°－E	長方形	0.96 × 0.80	26	ほぼ直立	平坦	人為	土師質土器	SK76·79→本跡
76	C2f2	N－32°－E	長方形	2.82 × 0.72	52	直立	平坦	人為		SK73→本跡→SK75·79·90
77	C2f2	N－65°－W	方形	0.66 × 0.62	52	直立	平坦	人為	陶器	SK78·92·99→本跡
78	C2f2	N－33°－E	長方形	3.48 × 0.86	48	外傾	平坦	人為		SK99→本跡→SK77
80	C2f3	N－55°－W	長方形	2.74 × 0.78	48	外傾	平坦	不明		SE2→SK47·55·81→本跡→SK71
81	C2f3	N－53°－W	隅丸長方形	1.90 × 0.70	34	外傾	平坦	人為		本跡→SK90
85	C2f2	N－37°－E	長方形	3.38 × 0.80	56	外傾	平坦	人為		SK86→本跡 SK96と重複
86	C2f2	N－41°－E	長方形	2.84 × 0.72	46	外傾	平坦	人為		本跡→SK83 SK95と重複

(ウ) その他の土坑

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
5	C1f0	N－32°－W	［楕円形］	1.10 × (0.50)	80	ほぼ直立	平坦	人為		
9	C2h2	N－48°－W	［楕円形］	0.88 × (0.52)	72	ほぼ直立	平坦	人為	土師質土器，磁器	
51	C2f2	－	円形	0.40 × 0.40	38	ほぼ直立	平坦	人為	磁器	
63	C2f1	N－38°－E	楕円形	0.60 × 0.50	44	ほぼ直立	皿状	人為	土師質土器，陶器，磁器	
73	C2f1	N－71°－E	不定形	3.30 × 2.20	14	緩斜	平坦	人為	土師質土器，陶器	SK74·76→本跡→SK46·75·79
90	C2e2	N－20°－E	楕円形	0.60 × 0.34	54	ほぼ直立	平坦	人為	土師質土器，銭貨	SK76→本跡

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期や性格が明確でない井戸跡２基，土坑56基，柱穴列跡４条，ピット群２か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。いずれの遺構も第３次面で確認した。

(1) 井戸跡

第１号井戸跡（第28図）

位置 調査区中央部のＣ２e1区，標高10ｍほどの低台地上に位置している。

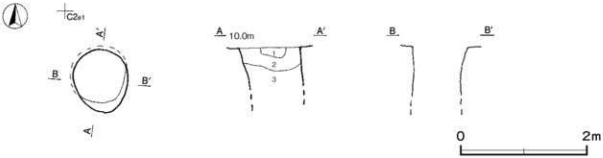
重複関係 上部に第１号堤防が構築されている。

規模と形状 長径1.02ｍ，短径0.85ｍの楕円形で，長径方向はＮ－12°－Ｗである。壁は直立している。深さ80cmまで掘り下げた時点で，湧水のため調査を断念した。

覆土 ３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，粘土ブロック微量　　3　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量

所見　時期は，堤防との重複関係から，18 世紀中葉以前に廃絶していると考えられる。



第 28 図　第 1 号井戸跡実測図

第 2 号井戸跡（第 29 図）

位置　調査区中央部のＣ２ｆ３区，標高 10 m ほどの低台地上に位置している。

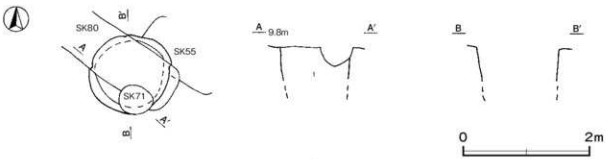
重複関係　第 55 号土坑を掘り込み，第 71・80 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　径 1.30 m の円形と推定される。壁は直立している。深さ 70cm まで掘り下げた時点で，湧水のため調査を断念した。

覆土　確認できたのは 1 層である。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

所見　時期は，周辺遺構との位置関係から，18 世紀中葉以前に廃絶していると考えられる。



第 29 図　第 2 号井戸跡実測図

表3　その他の井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
1	C2e1	N－12°－W	楕円形	1.02 × 0.85	(80)	直立	不明	人為		本跡→SA 1
2	C2f3	－	［円形］	1.30 × [1.30]	(70)	直立	不明	人為		SK55→本跡 →SK71・80

(2)　土坑

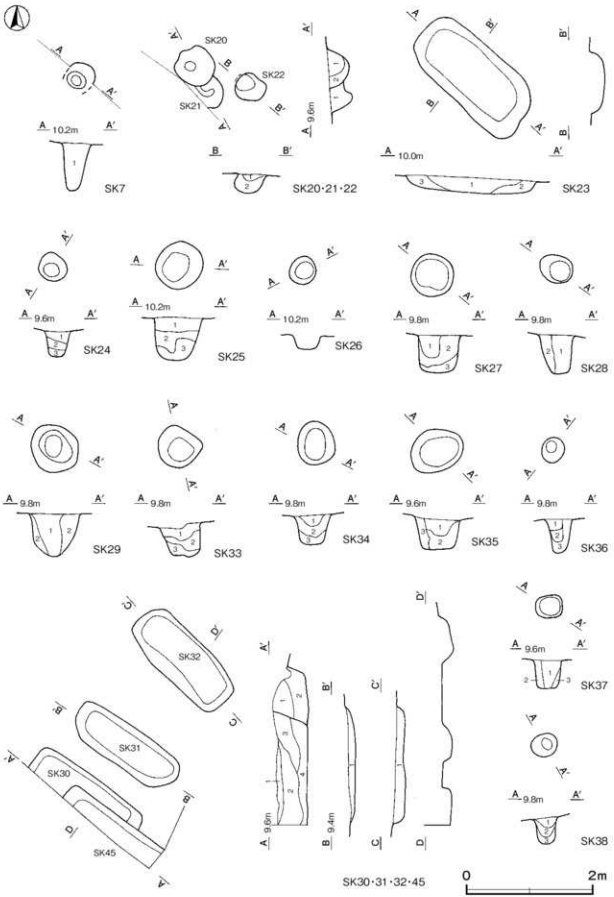
時期や性格が明確でない土坑については，実測図（第 30 ～ 32 図），土層解説及び一覧表にて掲載する。

第 7 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

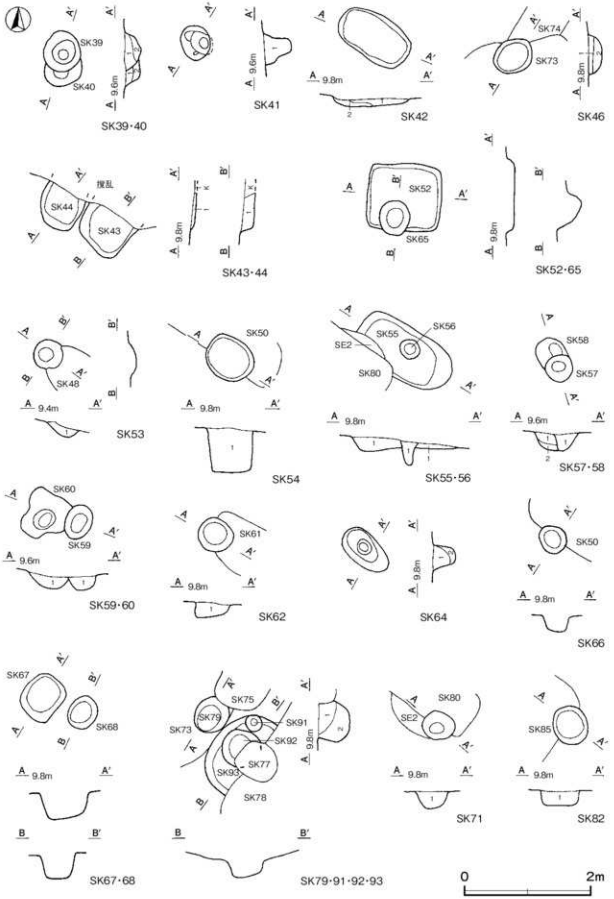
第 20 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 21 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

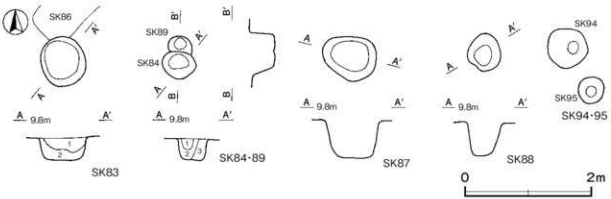
第 22 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量



第30図　その他の土坑実測図(1)



第 31 図　その他の土坑実測図 (2)



第32図　その他の土坑実測図(3)

第23号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量

第24号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量

第25号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

第27号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第28号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量

第29号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量

第30号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第31号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック中量

第32号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・炭化物少量

第33号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第34号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量

第35号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量

第36号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第37号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第38号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第39号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量

第40号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第41号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量

第42号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第43号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量

第44号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第45号土坑土層解説
1　暗　褐　色　粘土ブロック中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック中量，炭化物少量
4　黒　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック微量

第46号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第53号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第54号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 55 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量，赤色粒子微量

第 56 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・赤色粒子微量

第 57 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 58 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 59 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 60 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 62 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量，粘土ブロック微量

第 64 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 71 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量

第 79 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 82 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量

第 83 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 84 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

表4　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
7	C2h1	N－38°－E	［楕円形］	(0.46) × (0.43)	76	直立 ほぼ直立	凹状	人為		
20	C2h1	－	不整円形	0.66 × 0.66	52	外傾	凹状	人為		SK21→本跡
21	C2h1	N－40°－W	［楕円形］	(0.42) × (0.38)	35	外傾	凹状	人為		本跡→SK20
22	C2h2	N－50°－W	不定形	0.46 × 0.44	30	外傾	凹状	人為		
23	C2f1	N－48°－W	隅丸長方形	2.14 × 0.98	12	外傾	平坦	人為	土師質土器	
24	C2g1	－	円形	0.48 × 0.48	40	ほぼ直立	平坦	自然		
25	C2a1	－	円形	0.75 × 0.75	68	ほぼ直立	凹状	人為		SA1→本跡
26	C1e8	－	円形	0.42 × 0.40	20	外傾	平坦	不明		SA1→本跡
27	C2e3	－	円形	0.68 × 0.65	58	直立	平坦	人為		
28	C2g1	N－53°－W	楕円形	0.54 × 0.44	60	ほぼ直立	平坦	人為		
29	C2e3	N－50°－W	楕円形	0.82 × 0.73	68	外傾	凹状	人為		
30	C2i2	N－55°－W	［長方形］	2.00 × (0.51)	57	外傾	平坦	人為		本跡→SK45
31	C2i2	N－55°－W	隅丸長方形	1.89 × 0.64	13	緩斜	平坦	不明		
32	C2i3	N－42°－W	隅丸長方形	1.88 × 0.77	16	外傾	平坦	不明	土師質土器	
33	C1g0	－	円形	0.70 × 0.70	52	直立 ほぼ直立	平坦	自然		
34	C2e3	N－14°－E	楕円形	0.68 × 0.60	46	外傾	平坦	自然		
35	C2f4	N－64°－E	楕円形	0.84 × 0.70	46	ほぼ直立	平坦	人為	土師質土器，磁器	
36	C2g1	－	円形	0.40 × 0.38	54	ほぼ直立	凹状	人為		
37	C1g0	N－89°－E	長方形	0.40 × 0.35	42	ほぼ直立	平坦	人為		
38	C1g0	－	円形	0.38 × 0.38	42	直立	凹状	自然		
39	C2h1	－	円形	0.64 × 0.60	28	緩斜	凹状	自然		SK40→本跡
40	C2h1	－	［円形・楕円形］	0.60 × (0.24)	24	外傾	平坦	自然		本跡→SK39
41	C2g2	N－25°－W	楕円形	0.56 × 0.48	43	外傾	凹状	人為		
42	C2e3	N－62°－W	隅丸長方形	1.23 × 0.72	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	
43	C2e3	N－38°－E	［隅丸長方形］	0.85 × (0.65)	18	外傾	平坦	人為		
44	C2e3	N－20°－E	［隅丸長方形］	0.68 × (0.62)	5	緩斜	平坦	人為		
45	C2a1	N－48°－E	［隅丸長方形］	1.78 × (0.34)	62	ほぼ直立	平坦	人為		
46	C2e2	N－67°－E	楕円形	0.66 × 0.54	22	ほぼ直立	平坦	人為		SK73・74→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
52	C2g2	N－85°－W	長方形	1.18 × 1.07	12	外傾	平坦	不明	土師器	本跡→SK65
53	C2f4	－	［円形］	0.48 ×（0.24）	22	緩斜	凹状	自然		本跡→SK48
54	C2f3	N－52°－W	楕円形	0.80 × 0.66	70	直立	平坦	人為	土師器	SK50→本跡
55	C2f3	N－60°－W	隅丸長方形	1.66 × 0.84	22	外傾 緩斜	平坦	人為		本跡→SE2・SK56・80
56	C2f3	－	円形	0.30 × 0.30	36	ほぼ直立	凹状	人為		SK55→本跡
57	C2h1	－	円形	0.44 × 0.42	28	外傾	凹状	人為		SK58→本跡
58	C2h1	N－28°－W	［楕円形］	（0.32）× 0.48	26	外傾	平坦	人為		本跡→SK57
59	C2h1	N－24°－E	楕円形	0.56 × 0.44	22	ほぼ直立	平坦	人為		SK60→本跡
60	C2h1	N－65°－E	不定形	0.74 ×（0.70）	18	緩斜	平坦	人為		本跡→SK59
62	C2g3	－	円形	0.56 × 0.54	26	直立 外傾	凹状	人為		SK61→本跡
64	C2g1	N－51°－W	楕円形	0.90 × 0.46	36	ほぼ直立	凹状	自然		
65	C2g2	N－5°－E	楕円形	0.58 × 0.48	38	外傾	凹状	不明	土師質土器	SK52→本跡
66	C2f3	－	円形	0.46 × 0.44	26	直立	平坦	人為		SK50→本跡
67	C2g1	N－33°－E	長方形	0.74 × 0.60	38	ほぼ直立	平坦	不明		
68	C2g2	N－26°－E	楕円形	0.53 × 0.44	34	ほぼ直立	平坦	不明		
71	C2f3	N－75°－W	楕円形	0.52 × 0.46	28	外傾	凹状	人為		SE2・SK80→本跡
79	C2f2	－	［円形］	（0.54）× 0.52	50	直立 外傾	平坦	人為		SK73→本跡→SK75
82	C2f3	N－13°－W	楕円形	0.62 × 0.54	24	直立	平坦	人為		SK85→本跡
83	C2g2	N－10°－W	楕円形	0.80 × 0.71	34	ほぼ直立	平坦	人為		SK86→本跡
84	C2g2	N－76°－W	楕円形	0.54 × 0.42	32	ほぼ直立	平坦	人為		SK89→本跡
87	C2f2	N－76°－W	楕円形	0.86 × 0.72	68	ほぼ直立	平坦	不明		
88	C2f1	N－3°－E	楕円形	0.60 × 0.54	52	外傾	平坦	不明		
89	C2g2	－	［円形］	0.38 ×（0.24）	38	ほぼ直立	平坦	不明		本跡→SK84
91	C2f2	－	円形	0.26 × 0.26	30	ほぼ直立	凹状	不明		SK93→本跡
92	C2f2	－	［円形］	0.60 ×（0.34）	48	ほぼ直立	平坦	人為		SK93→本跡→SK77
93	C2f2	－	［楕円形］	1.40 ×（0.70）	8	緩斜	平坦	不明		本跡→SK77・78・91・92
94	C2d3	－	円形	0.66 × 0.64	－	ほぼ直立	平坦	不明		
95	C2d3	－	円形	0.43 × 0.43	－	ほぼ直立	平坦	不明		

(3) 柱穴列跡

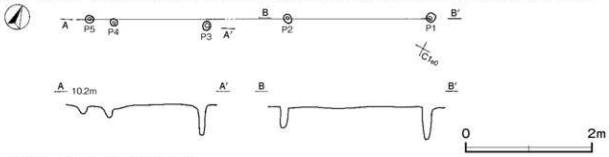
第１号柱穴列跡（SA ２）（第33図）

位置 調査区北部のＣ１d9～Ｃ１e9区，標高10ｍほどの低台地上に位置している。

規模と形状 Ｐ１からＰ５までの長さは5.4ｍで，方向はＮ－61°－Ｅである。柱間寸法は2.25ｍ，1.50ｍ，1.26ｍ，0.39ｍと不規則である。柱筋はおおむねとおっているが，Ｐ３のみ南にずれている。

柱穴 ５か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは11～50㎝である。

所見 時期は，堤防との重複関係から18世紀中葉以前に廃絶していると考えられる。性格は，不明である。



第33図 第１号柱穴列跡実測図

第２号柱穴列跡（SA ３）（第 34 図）

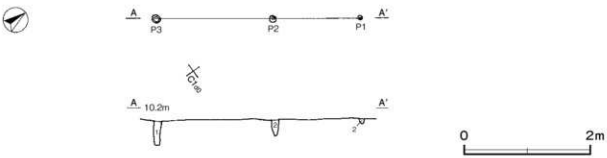
位置　調査区北部のＣ１c0～Ｃ１d9 区，標高 10ｍほどの低台地上に位置している。

規模と形状　Ｐ１からＰ３までの長さは 3.3ｍで，方向はＮ－ 36°－Ｅである。柱間寸法は 1.90ｍ，1.40ｍである。

柱穴　３か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは８～ 40㎝である。

土層解説（各柱穴共通）
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量　　2　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック中量

所見　時期は，堤防との重複関係から 18 世紀中葉以前に廃絶していると考えられる。性格は，不明である。



第 34 図　第２号柱穴列跡実測図

第３号柱穴列跡（SA ４）（第 35 図）

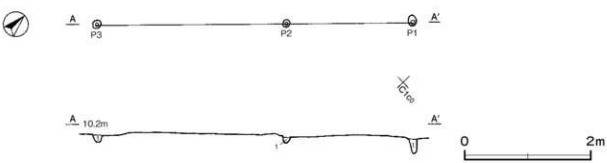
位置　調査区北部のＣ１b9～Ｃ１c8 区，標高 10ｍほどの低台地上に位置している。

規模と形状　Ｐ１からＰ３までの長さは 5.1ｍで，方向はＮ－ 44°－Ｅである。柱間寸法は 3.00ｍ，2.10ｍである。

柱穴　３か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは 11 ～ 24㎝である。

土層解説（各柱穴共通）
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

所見　時期は，堤防との重複関係から 18 世紀中葉以前に廃絶していると考えられる。性格は，不明である。



第 35 図　第３号柱穴列跡実測図

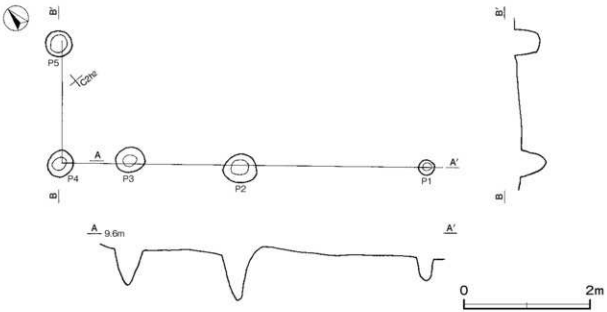
第４号柱穴列跡（SA ５）（第 36 図）

位置　調査区北部のＣ２g2～Ｃ２i2 区，標高 10ｍほどの低台地上に位置している。

規模と形状　Ｐ１からＰ４までの長さは 6.00ｍで，方向はＮ－ 48°－Ｗである。柱間寸法は 3.00ｍ，1.80ｍ，1.20ｍと不規則である。Ｐ４からＰ５までの長さは 2.10ｍで，方向はＮ－ 40°－Ｅである。Ｌ字状の配置である。

柱穴　５か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは 35 ～ 73㎝である。

所見　時期及び性格は，不明である。



第36図　第4号柱穴列跡実測図

表5　その他の時代柱穴列一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ（m）	柱間（m）	柱穴				主な出土遺物	備考
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
1	C1d9～C1e9	N－61°－E	5.4	0.39～2.25	5	円形-楕円形	0.11～0.16	0.11～0.13	11～50		SA 2
2	C1c0～C1d9	N－36°－E	3.3	1.40～1.90	3	円形	0.06～0.14	0.06～0.12	8～40		SA 3
3	C1b9～C1c8	N－44°－E	5.1	2.10～3.00	3	円形-楕円形	0.12～0.17	0.11～0.12	10～24		SA 4
4	C2g2～C2i2	N－48°－W N－40°－E	8.1	1.20～3.00	5	円形-楕円形	0.25～0.54	0.24～0.45	35～73		SA 5

(4)　ピット群

今回の調査で，時期や性格が明確でないピット群2か所を確認した。全体の配置図は全体図（第4図）に掲載し，規模を計測表にて掲載する。

表6　第1号ピット群ピット計測表

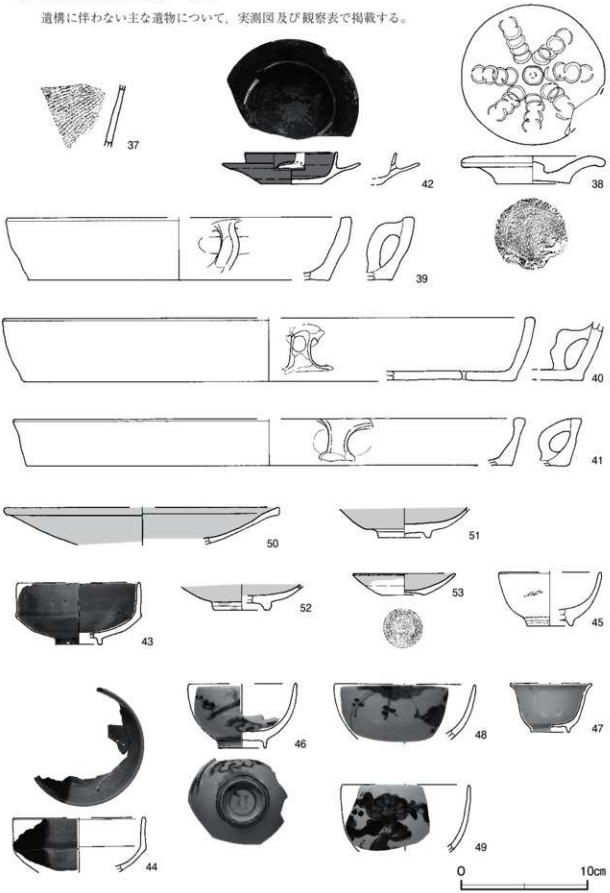
ピット番号	位置	形状	規模（cm）			ピット番号	位置	形状	規模（cm）			ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長軸(径)	短軸(径)	深さ				長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	C1b0	円形	14	14	－	3	C1b0	円形	12	12	－	5	C2d1	円形	16	16	－
2	C1b0	円形	12	12	－	4	C1d0	楕円形	20	14	－						

表7　第2号ピット群ピット計測表

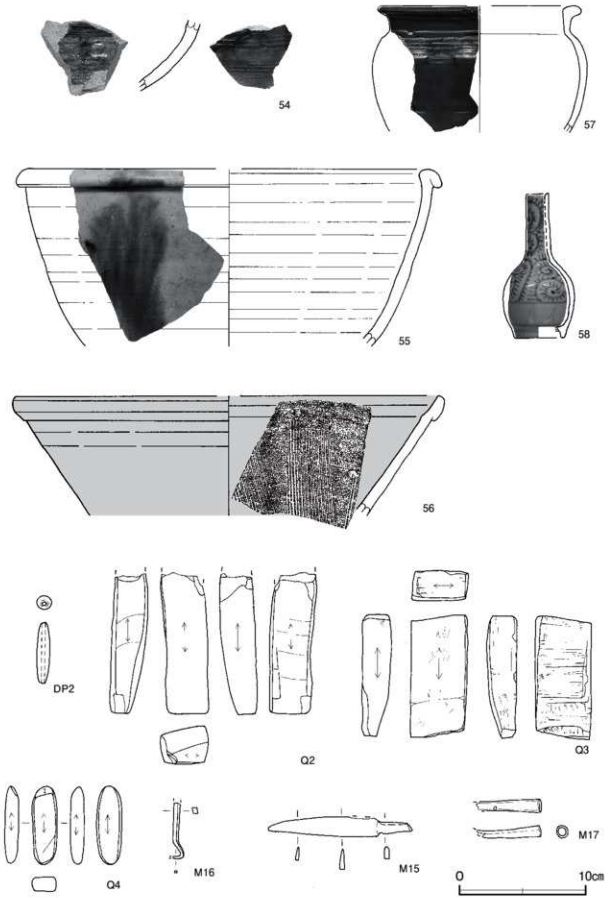
ピット番号	位置	形状	規模（cm）			ピット番号	位置	形状	規模（cm）			ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長軸(径)	短軸(径)	深さ				長径	短径	深さ
1	C2g1	楕円形	13	10	－	7	C2g1	円形	18	18	－	13	C2g1	円形	13	13	－
2	C2g1	楕円形	18	14	－	8	C2g1	方形	17	17	－	14	C2g1	円形	14	14	－
3	C2g2	楕円形	9	8	－	9	C2g1	不整楕円形	26	22	－	15	C1g0	楕円形	11	10	－
4	C2g1	円形	24	22	－	10	C2g1	楕円形	22	18	－	16	C1g0	長方形	18	16	－
5	C2h1	円形	22	22	－	11	C2g1	円形	7	7	－	17	C1g0	楕円形	22	16	－
6	C2f1	楕円形	22	18	－	12	C2g1	楕円形	11	10	－						

(5) 遺構外出土遺物（第37～39図）

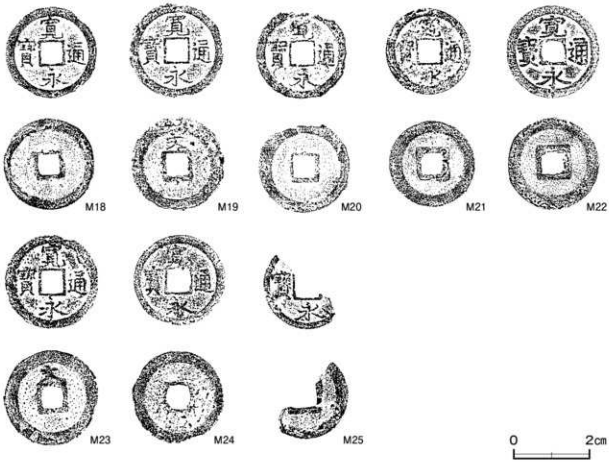
遺構に伴わない主な遺物について，実測図及び観察表で掲載する。



第37図　遺構外出土遺物実測図(1)



第 38 図　遺構外出土遺物実測図(2)



第 39 図　遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表（第 37 ～ 39 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	弥生土器	壺	－	(5.0)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部外面単節縄文L R（横）施文	表土	10%
38	土師質土器	蓋	11.4	2.2	5.7	長石	浅黄橋	普通	落し蓋　丸橋み　中心から放射状に7条 円の重なりが別印　見返し回転糸切り	表土	95%　PL 5
39	土師質土器	焙烙	[27.2]	5.0	[24.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	内耳1か所遺存　耳が内壁から底部に跨って付く	表土	10%
40	土師質土器	焙烙	[42.0]	5.0	[38.8]	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内耳1か所遺存　耳が内壁から底部に跨って付く　指頭痕	表土	5 %
41	土師質土器	焙烙	[40.8]	3.7	[38.8]	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	内耳1か所遺存	表土	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
42	陶器	灯明皿	7.2	2.5	4.8	赤色粒子・明褐灰	アーチ状油溝	灰釉	志戸呂	表土	60%　油煙付着
43	陶器	椀	[9.6]	4.9	[3.7]	長石・雲母・灰白	体部外面下位無釉	灰釉	瀬戸・美濃	表土	40%
44	陶器	椀	[10.4]	(4.4)	－	長石・灰白	左右削け分け	灰釉・鉄釉	瀬戸・美濃	表土	40%
45	瓶器	椀	[8.0]	4.3	[3.5]	緻密・灰白	染付　呉須　高台部二重圏線　高台脇一重圏線	透明釉	波佐見	表土	40%
46	瓶器	椀	[8.4]	5.1	3.6	緻密・灰白	染付　呉須　外面草文　高台際二重圏線	透明釉	波佐見	表土	50%
47	瓶器	椀	[6.4]	3.9	3.0	緻密・灰白	染付　呉須　口縁部外面一重圏線　高台際二重圏線	透明釉	瀬戸・美濃	表土	50%
48	瓶器	椀	[11.2]	(4.4)	－	緻密・灰白	染付　呉須　外草花文	透明釉	肥前	表土	20%
49	瓶器	椀	[10.2]	(5.4)	－	緻密・灰白	染付　呉須　外草花文	透明釉	肥前	表土	20%　PL 6
50	陶器	皿	[21.8]	(3.0)	－	長石・灰白	体部外面下位無釉	灰釉	瀬戸・美濃	表土	10%
51	陶器	皿	－	(2.4)	4.2	長石・石英・黒色粒子・灰白	蛇の目釉剥ぎ	灰釉	肥前	表土	40%
52	陶器	皿	－	(2.0)	[4.5]	長石・石英・赤色粒子・浅黄	蛇の目釉剥ぎ	灰釉	肥前	表土	30%
53	陶器	小皿	8.1	1.7	3.2	石英・黒色粒子・にぶい橙	見込みから口縁部外面にかけて施釉　トチン痕	灰釉	肥前	表土	100%　PL 5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
54	陶器	鉢	－	(5.7)	－	長石・にぶい黄橙	櫛毛目	灰釉	瀬戸・美濃	表土	5％
55	陶器	鉢	[32.0]	(14.1)	－	長石・黒色粒子 灰白	緑釉流し	灰釉・緑釉	瀬戸・美濃	表土	5％ PL 5
56	陶器	擂鉢	(33.8)	(9.5)	－	石英・黒色粒子 にぶい赤褐	擂り目 15 条一単位	鉄釉	堺	表土	5％
57	陶器	甕	[15.4]	(10.0)	－	長石・黒色粒子 灰白	鉄釉流し　肩部沈線４本	飴釉・鉄釉	瀬戸・美濃	表土	10％ PL 5
58	磁器	瓶	1.7	11.4	[3.8]	緻密・灰白	染付　唐草　外面頸唐草文	透明釉	肥前	表土	40％ PL 5

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	管状土錘	1.1	4.85	0.2～0.4	5.4	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	ナデ	SK21 覆土中	PL 6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	砥石	(11.2)	3.9	3.0	(161.10)	砂岩	砥面５面	表土	PL 6
Q 3	砥石	9.7	4.6	2.4	173.37	砂岩	砥面３面	表土	PL 6
Q 4	砥石	6.2	2.0	1.1	22.54	砂岩	砥面５面	表土	PL 6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	小柄	(11.4)	(1.7)	0.3～0.4	(22.59)	鉄	断面三角形	表土	
M16	釘	(4.4)	(0.5)	(0.5)	(2.35)	鉄	断面正方形　頭部欠損	SK26 覆土中	
M17	煙管	(5.1)	1.1	1.0	(5.01)	銅	吸口　口元長方形	表土	PL 6

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M18	銭貨	寛永通寶	2.47	0.56	3.16	銅	1668	新寛永　水の柱，銭ねがやや縦向き	表土	PL 6
M19	銭貨	寛永通寶	2.53	0.58	2.45	銅	1668	新寛永　背文　寛の後足が僅かに内銭	表土	
M20	銭貨	寛永通寶	2.48	0.58	(2.48)	銅	1668	新寛永	表土	
M21	銭貨	寛永通寶	2.31	0.59	2.90	銅	1668	新寛永	表土	
M22	銭貨	寛永通寶	2.52	0.56	3.83	銅	1636	古寛永　芝銭	表土	
M23	銭貨	寛永通寶	2.53	0.56	3.86	銅	1668	新寛永　背文　水の字荷ぐ	表土	
M24	銭貨	寛永通寶	2.46	0.65	2.52	銅	1668	新寛永　背文　水の字荷す	表土	
M25	銭貨	寛永通寶	(2.05)	(0.62)	(1.05)	銅	1668	新寛永　寶の後足銭ねる　水のノ爪長い	表土	

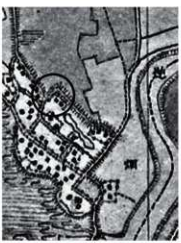
第4節 ま　と　め

1　はじめに

今回の調査で，堤防跡1条（江戸時代），溝跡1条（江戸時代），井戸跡2基（時期不明），土坑89基（江戸時代33，時期不明56），柱穴列跡4か所（時期不明），ピット群2か所（時期不明）を確認した。堤防跡は，第40図明治期の『第一軍(師)管迅速測図』（以下 迅速測図）に記載されている。調査区の堤防は，利根川，権現堂川及び江戸川に囲まれた，現在の五霞町域のほぼ全域を囲む約16kmの輪中堤の一部として描かれている。迅速測図によると，同町の殿山塚遺跡の第1号塚で報告されている旧堤防跡[1]も，本堤防の一部と考えられる。ここでは調査区の堤防を中心に，若干の考察を加えてまとめとする。

2　築堤の時期

第41図では，調査区の北部に赤堀川が描かれているが，これが現在の利根川の河道にあたり，江戸時代に開削された河川である。利根川は権現堂川を河道として江戸湾に流れていた。1654年に人工河川として赤堀川を開削し，長井戸沼を水源とする常陸川へ接続した。同じく，第41図で赤堀川・常陸川から分流して描かれているのは，1665年に開削された逆川である。逆川は分流後，南下して権現堂川と合流し，そこが江戸川流頭部となっていた。流頭部に設けられた棒出しによって江戸川への流入量が制限されるため，権現堂川の水量が多い場合は，逆川は逆流し，平常とは逆に，赤堀川へ向かって流れていく仕組みとなっていた[2]。



第40図　迅速測図における調査区の位置

調査区の堤防は，赤堀川筋にあたるため，赤堀川が開削された17世紀中葉以降の築堤と考えられる。町史によれば，赤堀川が通水した当初は利根川からの流入量が少なく，已然として「利根川の主流は権現堂川の河道で流れるのが自然である」[3]とされていることから，築堤の時期は，赤堀川通水の時期と同一とは必ずしも言えない。

表8は，五霞町域での江戸時代の主な堤防決壊場所を示したもので，決壊場所を流れる河川名を併記した。1836年までは権現堂川筋での決壊が目立つが，徐々に赤堀川の決壊が増えてくる。江戸時代に度々行われてきた赤堀川の浚渫・拡幅工事の結果，通水当初は少なかった赤堀川への流入量が徐々に増え，利根川の主流が移っていった証左であろう。

第41図　当遺跡周辺の略地図

1784年には，赤堀川筋の小手指，大福田，山

王及び山王山の村々から堤防強化の普請願が出された記録があるので[5]，18世紀後葉には確実に赤堀川筋に堤防が存在したといえる。さかのぼって，1742年の寛保２年の洪水では，西国大名に災害復旧を命じた『関東御普請御手伝』の対象河川に赤堀川の名前も挙がり，赤堀川流頭部（現古河市側）の中田新田から松ヶ瀬村[6]までの６里が対象範囲になっている[7]。具体的な普及作業の内容についての記述は見つからなかったため，堤防の存在を確定させるには至らなかった。しかし，今回の調査では，表法面の構築土下層から出土した焙烙や磁器などの遺物によって，18世紀中葉には築堤されていたことが確認できた。

表８　五霞町域の江戸時代の主な水害

年	決壊場所	河川
1786	冬木	権現堂川
1803	土与部	権現堂川
	幸主	権現堂川
1808	幸主	権現堂川
1824	冬木	権現堂川
	江川	逆川
1836	冬木	権現堂川
	江川	逆川
	釈迦	赤堀川
1846	釈迦	赤堀川
	元栗橋	権現堂川
1866	川妻	権現堂川・赤堀川
	小手指	赤堀川
	山王	赤堀川

また，堤防の土層からは水害の痕跡が見られた。一例を挙げると，第33～36層は第68層をえぐるように形成されたくぼみに堆積していた。（第42図）　このくぼみは，越水した水が裏法面を下り，裏法尻を洗掘して形成されたものと考えられる[8]。越水の痕跡であると同時に，くぼみの部分が一定期間，堤防の裏法尻であったことを示している。その後，腹付け盛土工事を行い，拡張していったようである。

江戸時代を通して赤堀川の浚渫・拡幅工事は行われ，水害の危険性が増していく中で，17世紀中葉から18世紀中葉の間に本堤防は構築され，その後も度重なる水害の被害を受けつつも補修と強化を繰り返されていったことが分かった。

第42図　越水の痕跡

３　堤内で確認された方形・長方形の土坑について

今回の調査で確認した土坑を(ア)～(ウ)の３つのグループに分けて報告した中で，(イ)の方形・長方形の土坑について，若干の考察をする。

周辺の遺跡では，瀬沼遺跡[9]，桜井前遺跡[10]，羽黒遺跡[11]，釈迦新田遺跡[12]，同所新田遺跡[13]などでも同様の形状をもつ土坑が確認されており，羽黒遺跡や釈迦新田遺跡では中世から近世の墓坑の可能性を指摘している。今回確認したものと同様，群集する土坑が多く，東西・南北の長軸をもつ，遺物の出土は多くないという共通点がある。当遺跡では，煙管や銭貨が出土していることから，墓坑の可能性が考えられる。

(イ)は，長軸方向，規模及び位置からA群～C群の３つに分けることができる。A群は東西に長軸を持つもので，第74～76・78・85・86号土坑が該当する。方形である第77号土坑は，位置からA群に含める。B群は南北に長軸を持つもので，第48～50・61・70・80・81号土坑が該当する。C群は，短軸がほかの土坑よりも長いもので，第47号土坑が該当する。

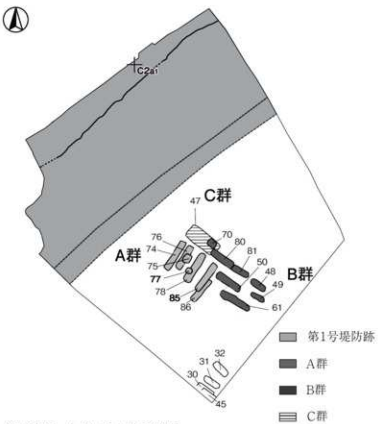
A群からは18世紀前葉から中葉の遺物が，B群からは18世紀後葉の遺物が，C群からは17世紀後葉から18世紀前葉の遺物が出土している。

(イ)は調査区南部でのみ確認でき，堤防跡があった調査区北部からは確認されていないことから，堤防と

(イ)の土坑は，同時期に存在していたと推測できる。

A群とB群では，B群の方が堤防跡から離れている。この位置の変化を，堤防の拡張に伴って，墓域を堤内側に移動したものであるとすると，堤防に腹付け盛土をした時期は18世紀後葉と考えられ，普請願の時期と一致する。

形状としては，第30～32・45号土坑も南北の長軸を持つ長方形の形状であるが，A群・B群と位置が離れていることと，独立した群とした時にこの群からは出土遺物がないことから，江戸時代と判断する根拠が薄いと判断し，本報告書ではその他の土坑として報告した。



第43図 （イ）の土坑の分布

4　おわりに

今回の調査によって，当地域の水害の痕跡や，堤防を補修・拡張してきた痕跡を確認でき，築堤の時期についても出土遺物をもとに検討を進めることができた。五霞の人々の暮らしを一変させた利根川の東遷事業であるが，江戸時代から続く，水害との闘いの歴史を垣間見ることができた。現在の五霞は，昭和24年のキャサリン台風以来大規模な水害には至っていない。

また，調査区の堤防は，広大な輪中状堤防のごく一部分ではあるが，権現堂川筋に比べ，赤堀川筋の資料は少なく，不明な部分を解明する一助となれば幸いである。堤敷の整地面に見られた土坑など，調査で解明に至らなかった部分もあり，今後の調査事例の増加とともに新たな情報の蓄積を期待したい。

註

1）佐藤一也「新田遺跡　上原遺跡　殿山塚　首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第395集　2015年3月

2）松浦茂樹『利根川近現代史』古今書院　2016年8月

3） 五霞町史編さん委員会『町史　五霞の生活史　水と五霞』 五霞町　2010年３月

4） 註３に同じ

5） 註３に同じ

6） 原文ママ。本間ヶ瀬村の誤りか。本間ヶ瀬村は，現在の関宿町にあたる。

7） 利根川百年史編集委員会『利根川百年史』建設省関東地方建設局　1987年11月

8） 内閣府　大規模水害対策に関する専門調査会作成資料「堤防決壊の事例」2009年１月

9） 本橋弘巳「同所新田遺跡２　瀬沼遺跡２　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第312集　2009年３月

10） 桑村裕「桜井前遺跡　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第288集　2008年３月

11）a　駒澤悦郎「羽黒遺跡　一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第202集　2003年３月

b　石川義信「羽黒遺跡２　一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第262集　2006年３月

12）a　坂本勝彦「釈迦新田遺跡　首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第352集　2012年３月

b　大久保芳紀「釈迦新田遺跡２　首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書４」『茨城県教育財団文化財調査報告』第418集　2017年３月

13）a　桑村裕「清水遺跡　同所新田遺跡　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第290集　2008年３月

b　註９に同じ

参考文献

・五霞町史編さん委員会『町史　五霞の生活史　水と五霞』五霞町　2010年３月

・五霞町史編さん委員会『町史　五霞の生活史　資料Ⅰ』五霞町　2011年３月

・田中祐樹『古利根川（旧利根川）左岸の中世堤防について－近年の調査結果から－』埼玉考古学会『埼玉考古51』　2016年３月

・北垣聰一郎『近世河川の護岸堤防における付属構造物の「水制」』帝京大学文化財研究所『研究報告』第14集　2010年５月

・畑大介『引っ張り構造をもつ護岸施設の展開』帝京大学文化財研究所『研究報告』第14集　2010年５月

・畑大介『中近世における河川堤防の構造と技術』帝京大学文化財研究所『研究報告』第16集　2017年３月

・松浦茂樹『利根川近現代史』古今書院　2016年８月

・松戸市立博物館『江戸川の社会史』同成社　2005年２月

・利根川文化研究会『利根川荒川事典』国書刊行会　2004年２月

写　真　図　版

調 査 区 全 景

第 1 号 堤 防 跡
Aトレンチ北側（1）

第 1 号 堤 防 跡
Aトレンチ北側（2）

第１号堤防跡
Aトレンチ北側（3）

第１号堤防跡
Bトレンチ北側

第１号堤防跡
表　法　面

第１号堤防跡
２　次　面

第30～32・45号
土　　坑

第75～78・90～93号
土　　坑

第１号堤防跡,第70号土坑出土土器

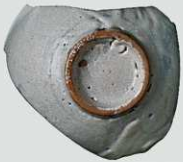
SA 1 - 1

遺構外-53

遺構外-38

遺構外-58

SA 1 - 8


SA 1 -13

遺構外-55

遺構外-57

第 1 号堤防跡，遺構外出土土器

第 1 号堤防跡，第 1 号溝跡，第47・63・70号土坑，遺構外出土遺物

抄　　録

ふりがな	さんのうなかつぼいせき
書　　名	山王中坪遺跡
副　書　名	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書5
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第428集
著　者　名	大武宣隆
編　集　機　関	公益財団法人茨城県教育財団
所　在　地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発　行　日	2018（平成30）年3月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
山王中坪遺跡 （さんのうなかつぼいせき）	茨城県猿島郡五霞町 大字山王1,497番地 （いばらきけん さしまぐん ごかまち） ほか	08542 － 075	36度 6分 0秒	139度 46分 29秒	12 ～ 13m	20160801 ～ 20160930	988㎡	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山王中坪遺跡	堤防跡 集落跡	近世	堤防跡　1条 溝　1条 土坑　33基	土師質土器（壷・灯明皿・小皿・焙烙），陶器（碗・皿・小皿・鉢・擂鉢・甕），磁器（碗・皿・猪口・瓶），土製品（管状陶錘），石器（砥石），金属製品（釘・煙管），銭貨	
	その他	時期不明	井戸跡　2基 土坑　56基 柱穴列跡　4条 ピット群　2か所	土製品（管状土錘），石器（砥石）	

要　　約	今回の調査では，調査区の東西に延びる第1号堤防跡を確認した。出土遺物から，この堤防が17世紀中葉から18世紀中葉の間に構築されたことが分かった。また，土層の堆積状況から，最初に築堤された状態から幅を広くする工事を行っていることや，大水の被害を受け，補修してきたことなどが分かった。

印　刷　仕　様

編　集	ＯＳ	Microsoft Windows 7 Professional ServicePack1
	編集	Adobe InDesign　CS６
	図版作成	Adobe Illustrator CS５
	写真調整	Adobe Photoshop CS６
	Scanning	６×７film　Epson GT-X980
	図面類	imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
	OpenType	太ゴB101 Pro
写　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CS６でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第428集

山 王 中 坪 遺 跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業
地 内 埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書

平成30（2018）年　３月15日　印刷
平成30（2018）年　３月16日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　山三印刷株式会社
〒311－4153　水戸市河和田町4433の33
TEL　029－252－8481